



土岐川庄内川コレカラプロジェクトに関する お問い合わせはこちらまで

国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所

〒462-0052 名古屋市北区福德町5-52 TEL 0120-4071-41

ホームページアドレス <http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/>

E-mailアドレス shonai@cbr.mlit.go.jp

●庄内川第一出張所

〒453-0862

名古屋市中村区岩塚町
字西起168

●庄内川第二出張所

〒462-0016

名古屋市北区西味鮠
2-301

●土岐川出張所

〒507-0042

岐阜県多治見市前畑町
1-39-1

土岐川庄内川コレカラプロジェクト

コレカラボイスその2(整備の考え方編)

土岐川庄内川コレカラプロジェクト コレカラボイスその2(整備の考え方編)

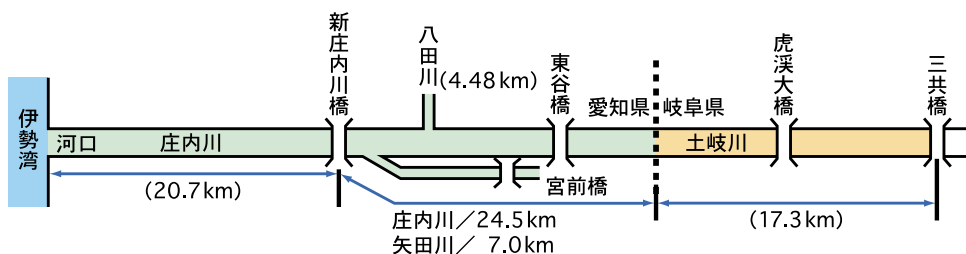
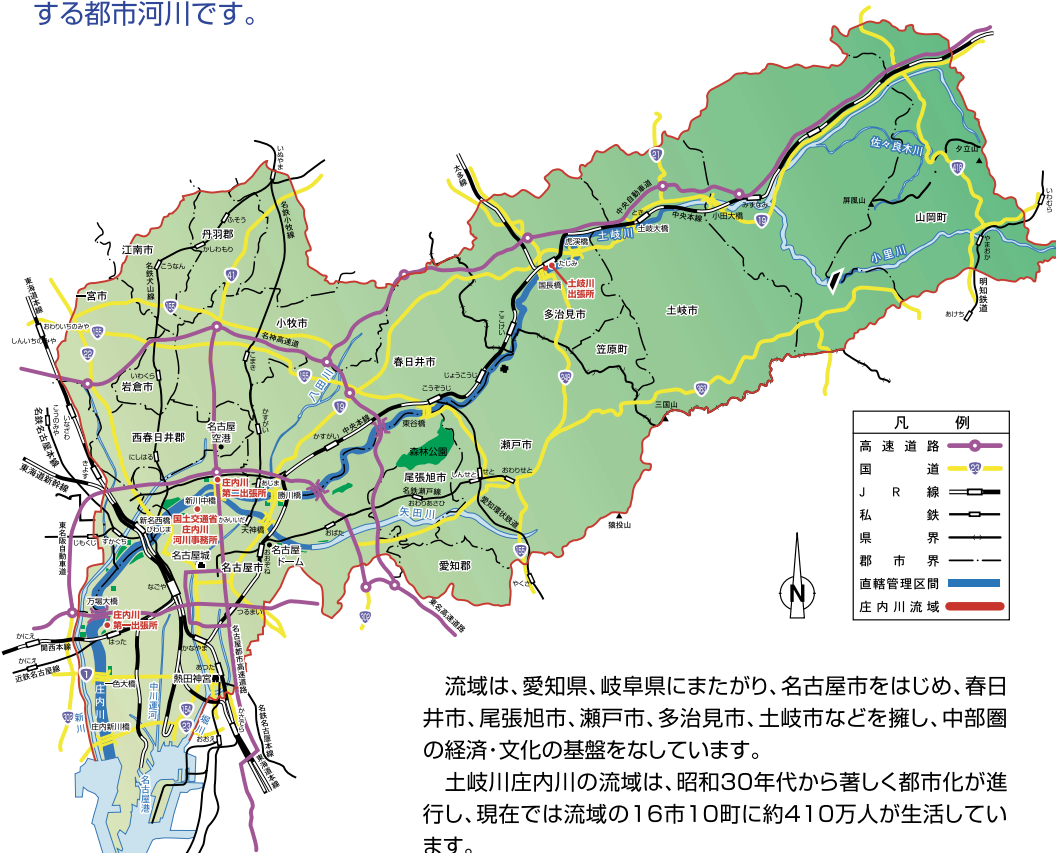
～流域の皆さまから寄せられた意見～



庄内川河川事務所

「土岐川庄内川」 ってどんな川？

庄内川（土岐川）は、その源を岐阜県恵那郡の夕立山（標高727m）に発する一級河川で、東濃地方の盆地を貫流し、濃尾平野を南下して伊勢湾に注ぐ中部地方を代表する都市河川です。



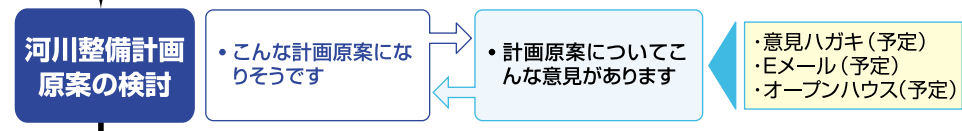
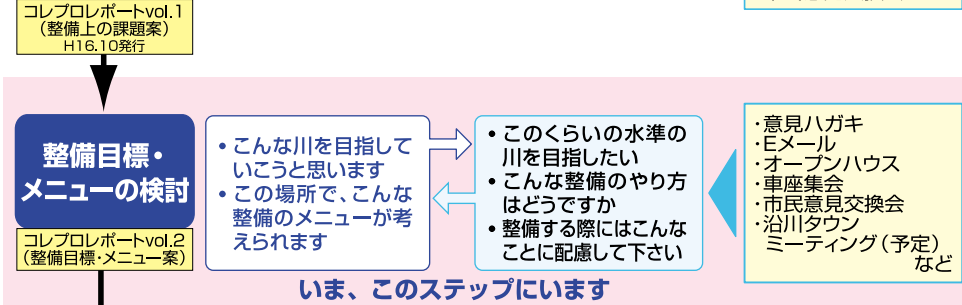
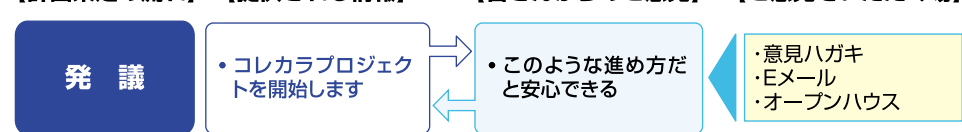
「土岐川庄内川コシカラ プロジェクト」ってなに？

土岐川庄内川の河川の整備について、広く皆様のご意見を聞きながら、より良い計画づくりを目指している取り組みです。現在は「整備目標・整備メニューの検討」ステップです。

庄内川河川事務所では、今後20年から30年間の具体的な河川整備に関する事項を定める「河川整備計画」の策定作業に取り組んでいます。

計画検討に際しては、専門家による技術的検討や、流域市町との意見交換を進めながら、流域住民の皆さんとの対話を重ねて、皆さんと一緒に良い計画づくりを目指しています。

【計画策定の流れ】 【提供される情報】 【皆さんからのご意見】 【ご意見をいただく場】



河川整備計画

「コレカラボイス その2 (整備の考え方編)」ってなに？

皆さんからいただいた整備の考え方に関する意見と、具体的な場所に関する意見等
をとりまとめました。意見に漏れはないでしょうか？

平成17年3月までに開催されたオープンハウスや車座集会などで寄せられた意見のうち、整備の考え方
に関するものと、具体的な場所に関するものを分類、整理して「コレカラボイスその2(整備の考え方編)」
としてまとめています。あわせて、土岐川庄内川に特に関心の高い方々が集い議論を重ねてきた「市民意見
交換会」の提言も掲載しています。

「コレカラボイスその2(整備の考え方編)」は、皆さんからどんな意見が出されたのか広く共有してい
たぐととも、意見に漏れないかどうか確認していただくことをねらいとしています。

このような活動を通して

整備の考え方や具体的な場所に関する意見等が集まりました

平成17年3月までに、オープンハウスは45会場、車座集会は8地区で開催しました。オープンハウスでの
アンケート、車座集会での議論、意見ハガキなどを通して、皆さんから多くの意見が寄せられました。

その他、平成15年9月から10回の市民意見交換会が開催され、その成果として平成17年2月に提言が
とりまとめられました。

平成15年度の活動

オープンハウス (プレ開催：平成15年度春～夏)

- オープンハウスin春日井市役所
(平成15年3月12日開催)
- オープンハウスinメーテレ春祭り
(平成15年4月12日・13日開催)
- オープンハウスin土岐川観察館
(平成15年4月29日開催)
- オープンハウスinCBCなごや夏まつり
(平成15年7月26日・27日開催)

オープンハウス (平成15年度夏)

- バローグループ三起屋
(平成15年8月9日・10日開催)
- サンテラス多治見(平成15年8月30日・31日開催)
- 高蔵寺センター・サンマルシェ
(平成15年8月16日・17日開催)
- ジャスコシティ守山(平成15年8月23日・24日開催)
- ワンダーシティ(平成15年8月30日・31日開催)
- ジャスコ南陽店(平成15年9月13日・14日開催)

車座集会+オープンハウス (平成15年度冬)

- 名古屋市西区 枇杷島スポーツセンター・枇杷島学区集会所
(平成16年1月15日・16日開催)
- 西枇杷島町
間屋記念館・福祉センター
(平成16年1月18日～22日開催)
- 多治見市
まなびパーク(平成16年1月28日開催)

平成16年度の活動

オープンハウス(平成16年度春)

- ヤマナカ小田井店(平成16年5月10日・11日開催)
- ユーストア西春店(平成16年5月10日・11日開催)
- ナフコ勝店(平成16年5月12日・13日開催)
- アルテ西枇杷島店(平成16年5月12日・13日開催)
- ワンダーシティ(平成16年5月15日・16日開催)



- アビタ名古屋北店(平成16年5月15日・16日開催)
- アビタ小牧店(平成16年5月15日・16日開催)
- ダイヤモンドシティ(平成16年5月15日・16日開催)
- サンテラス多治見(平成16年5月15日・16日開催)
- バローグループ三起屋(平成16年5月15日・16日開催)



- アビタ港店(平成16年5月22日・23日開催)
- ジャスコ南陽店(平成16年5月22日・23日開催)
- アビタ新守山店(平成16年5月22日・23日開催)
- 長久手温泉ざらっせ(平成16年5月22日・23日開催)
- ユーストア印場店(平成16年5月22日・23日開催)
- 春日井サティ(平成16年5月29日・30日開催)
- ジャスコシティ守山(平成16年5月29日・30日開催)
- 高蔵寺センター・サンマルシェ(平成16年5月29日・30日開催)
- ジャスコ瀬戸みずの店(平成16年5月29日・30日開催)
- ユーストア大治店(平成16年5月29日・30日開催)
- ※右記4ヶ所でパネル展示のみの開催
- コープいむくら(平成16年5月10日～16日)
- コープ小幡(平成16年5月17日～23日)
- コープくろかわ(平成16年5月10日～16日)
- コープ藤ヶ丘(平成16年5月17日～23日)

車座集会(平成16年度夏)

- 名古屋市北区 市立北中学校(平成16年7月29日開催)
- 名古屋市西区 山田地区会館(平成16年8月25日開催)



オープンハウス(平成16年度秋)

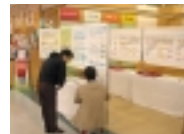
- オアシス21(平成16年10月30日・31日開催)
- 八田フロンテ館(平成16年11月3日開催)
- ワンダーシティ(平成16年11月3日・6日開催)
- ジャスコシティ守山(平成16年11月6日・7日開催)
- ユーストア気場店(平成16年11月13日・14日開催)



- バローグループ三起屋(平成16年11月13日・14日開催)
- サンテラス多治見(平成16年11月13日・14日開催)
- メッツ大曽根(平成16年11月20日・21日開催)
- アルテ新中島店(平成16年11月20日・21日開催)
- アビタ名古屋北店(平成16年11月20日・21日開催)



- アルテ西枇杷島店(平成16年11月20日・21日開催)
- アビタ港店(平成16年11月27日・28日開催)



車座集会(平成16年度冬)

- 名古屋市中川区 中川学校体育センター(平成16年11月26日開催)
- 名古屋市北区 名古屋市総合福祉会館(平成16年11月30日開催)
- 春日井市 南部ふれあいセンター(平成17年1月28日開催)



整備の考え方に関する意見

整備の考え方に関する意見のまとめ方

皆さんが日頃土岐川庄内川に関して課題とと思っていることを「コレカラボイス その1(課題編)」として平成16年3月にとりまとめ、発行しました。

その課題の中から次の8つのトピックをとりあげ、平成16年春以降に開催してきたオープンハウスで、トピックに関する皆さんの考え方を伺ってきました。6ページ～12ページにとりまとめたのは、その意見を分類、整理したものです。

トピック

1. 治水の目標を検討するにあたって
どのようなことに気をつけるべきか?
2. 雨水貯留・雨水浸透対策をどのように進めていくべきか?
3. 内水被害解消をどのように進めていくべきか?
4. 治水工事をどのように進めていくべきか?
5. 水質の改善をどのように進めていくべきか?
6. 外来生物への対処をどのように進めていくべきか?
7. 堤防道路をどのようにしていくべきか?
8. 河川空間をどのように利用、管理していくべきか?

とりまとめた意見の見方

皆さんから寄せられた意見は、同じ内容どうしで束ね、「意見の主旨」としてとりまとめています。

また、計画づくりに反映しやすいように、同様の「意見の主旨」を集め、それぞれタイトルをふっています(例: **1-1** などからはじまる文章)。なお、意見の主旨の文末の数字(例:(2))は、意見の主旨の元となった意見の数を表しています。1つしか意見がない場合には、数値の記述はありません。

1 治水の目標を検討するにあたって、どのようなことに気をつけるべきか?

1-1 治水、環境保全、利用の調和が大切

- 自然環境の保全と治水の調和が必要(25)
- 治水への考慮の一方、自然環境の保全も大事(16)
- 洪水・水害対策とともに、水質改善に努力すべき(2)
- 治水だけを目的に整備を考えてほしくない(2)
- 長期的に見て流域住民が住みやすくなることが大事

1-2 流域全体で治水を考えることが重要

- 森林保全、税制などを通して、流域での雨水浸透対策を進めるべき(5)
- 支川の治水も考慮しながら、洪水・水害対策を行うべき(4)
- 周辺の土地利用を考慮して、洗堰の関係を直すべき(4)
- 上下流域が一体となって取り組むことが必要(3)
- 上流の開発が問題を引き起こしているのではない(2)
- 元々の河道や遊水機能を活用すべき
- 堀川等への河川水の流入量を増加させるべき

1-3 洪水・水害対策を優先すべき

- 洪水・水害対策を優先すべき(17)
- 二度と洪水・水害が起こらぬよう、洪水・水害対策を優先すべき(2)
- 自然環境の保全も大事だが、やはり洪水や水害が心配(2)
- 地震が心配(2)
- 被害が特に多い地域の治水を優先すべき(2)
- 洪水・水害対策を優先し、整備に伴う移転等に対しては補償を行うべき
- 洪水・水害対策を優先すべき。水質の改善がその次に大切

1-4 水質改善や環境保全を優先すべき

- 治水も大事だが、水質向上を優先すべき(7)
- 自然環境の保全が最も重要(5)
- 自然環境の保全が最も重要で、その次に治水が重要(5)
- 多様な生物が共存できるよう、自然環境を保全すべき(2)
- 水と緑が大切(2)

1-5 水とのふれあい、憩えることが重要

- 安全に川とふれあうことが出来る様にすべき(4)
- 雨水浸透対策などを進め、河川空間の利用のし易さを向上させることが重要
- 憩いの場となることが大切

1-6 天災は予測が難しいことを前提に治水を考えるべき

- 水害を完全に抑えることは難しい。ある程度、洪水と共存することを考えるべき(4)
- 予測は難しいので、洪水の危険があることを承知しておくことが重要(3)
- 予測は難しいが、行政が責任を持って相応の対策を行うべき
- 天災は防ぎようがない。なるべくお金をかけないような対策を考えるべき
- 予測が難しいため、だんだんに目標を高くしていけばよいのではない(4)
- どの程度の洪水に耐えうる川を目指すのかよく議論することが重要

1-7 水害後の対策も考慮した、事前の官民協力やソフト施策の充実が大切

- 人災にならないよう、適切に対策を行うべき(4)
- 水害が起こった後の対策が大事(2)
- 地元住民が管理可能な治水対策も考えるべき
- 災害を全て防ぐことは不可能なので、水害が起こった後の対策が大事
- 避難勧告を行う場合、安全な避難場所を確保すべき

- 都市計画は官民協働で行い、流域での治水を考えるべき
- 個人の洪水対策への優遇が図られると良い

1-8 情報の提供が大切

- 危険箇所等の情報提供が大事(3)
- 計画づくりに関するフィードバックをきちんと行うべき
- 災害時の安全性についての情報提供が必要
- 災害の補償も明確にしてほしい

2 雨水貯留・雨水浸透対策をどのように進めていくべきか？

2-1 流域全体で一体的に雨水貯留・雨水浸透対策を推進すべき

- 治水のため、市民・行政、上下流域が一体となって取り組むことが必要(34)
- 開発を抑制し、森林や緑地の確保を通して、保水能力を確保すべき(18)
- 雨水を再利用することが大事(7)
- 治水のため、上下流域が一体となって取り組むとともに、自然環境にも配慮すべき(7)
- 下流の被害を抑えるため、保水への取り組みが必要(3)
- 市民個別の雨水貯留では効果が期待できないため、市民・行政が一体となって取り組むべき(2)

2-2 雨水貯留・雨水浸透のための適切な設備を設置すべき

- 貯留タンクによる家庭での雨水の再利用を促進すべき(9)
- 雨水貯留施設が設けられれば、安心できる(4)
- ダムなどができるのは好ましくない(3)
- 雨水貯留対策として、貯水池をつくるのがよいのでは(3)
- 貯留施設は必要だと感じるが、根本的には自然の保水能力を高めることが必要(3)

- 水田を保水能力の一部と考え、対策を検討すべき(2)
- 公共施設の地下を貯留施設として活用すべき(2)
- 浸透性の高い舗装などの敷設を推進すべき(2)
- 雨水貯留は必要と思うが、費用をかけすぎるのは問題(2)
- 河川には手を加えず、貯水に都市の地下を利用すべき
- 過去のデータに基づいて、貯留施設を計画すべき
- 工事を中止された更地が洪水の原因とならないかが心配
- 地下の許容量が不足しているので、地上に貯留施設が必要
- 貯留施設の設置には、それに有効な場所を慎重に検討すべき

2-3 雨水貯留等と併せて他の施策を実施することも重要

- 貯留施設だけでなく、河床掘削など併せて行うべき。森林保全による涵養能力も高めるべき(2)
- 雨水貯留が重要であるとともに、川の水質にも注意が必要(2)

2-4 雨水貯留等の施策では限界があるのではない

- 河道の改修等抜本的な解決策を講じるべき(7)
- ダムを造ることで対応できないのか
- 衛生・交通への影響が考え得るので、貯留施設に反対
- 雨水貯留の必要性は感じない
- 洪水・水害対策のために堤防整備を重視すべき
- 洪水とうまくつきあっていくことで良いのではない
- 上下流域の人々がともに満足することは不可能

2-5 雨水貯留・雨水浸透を効率的に進めるためのメンテナンスも重要

- 雨水貯留・浸透設備の設置は重要だが、メンテナンスが不可欠なので、心がけやそのための取り組みが必要(5)

2-6 各人が協力できる枠組みの充実が必要

- 各人が協力することが大切。そのための設備の強化や補助の推進を期待(16)
- 雨水貯留や浸透対策を推進するための市民への啓発活動をすべき(8)
- 貯留タンクの利用を促進するため、行政でPRを行うべき(3)
- 一人一人の心がけが大切
- 雨水貯留対策に関するより多くの情報の普及、補助を促進すべき
- 市民の意識啓発の場が必要。その場として、市民農園を活用し雨水利用を図るべき
- 自然環境を優先すべき。また、家庭の貯留タンク設置に補助金を出すべき
- 設備の補助制度や条例は、市民の負担が平等になるように配慮すべき
- 歴史的・地形的に洪水が多発してきたことを広く知らしめるべき

3 内水被害解消をどのように進めていくべきか？

3-1 洪水時にポンプを止めなくて良い程度の整備をすべき

- 洪水時にポンプを止めないようにできないか(2)

3-2 内水被害を軽減すべく、適切な措置を講ずべき

- 内水被害軽減のため、流域の保水能力向上に努めるべき(2)
- 都市内で水を一時的に貯められるような施設や設備を設置してはどうか(2)
- ダムに代わる貯水機能を検討すべき
- 上流からの流出を減らすべき
- 下水雨水管路貯留などの内水に効果がある設備設置を期待

3-3 内水対策に関する情報が少ないので、情報を提供して欲しい

- どのような内水対策が図られているのかよく分からないので、情報提供すべき(4)

4 治水工事をどのように進めていくべきか？

4-1 洪水・水害を抑えることを第一に考えた工事を推進すべき

- 人の安全を第一に考えて、堤防嵩上げや河道掘削などなどの治水工事を施すべき(10)
- 土砂の堆積のために河川が溢れることのないよう、早めの対処を期待(6)
- 河道掘削等で自然が失われるのは仕方がない(5)
- 流量を確保するため、川を拡張できないか(3)
- 堤防が低くて不安なので、堤防をかさ上げすべき(3)
- 河川敷の大木は今後大雨の際に影響が考え得るので、伐採すべき(2)
- 堤防高をそろえるなど、場所の不公平感をなくすべき(2)
- 自然環境を大切にすることも大事だが、洪水を防ぐための対策を施して安全になるのが一番(2)
- 現状の手法では限界があるため、抜本的な対策を施すべきではないか
- 情報を考慮しつつ検討を進め、品質の確保を図ってほしい
- 河床やダムを浚渫し、貯水量増加を図るとともに、浚渫土砂を活用すべき
- 河道をコンクリートで固め、しっかりした構造とすべき
- 洪水・水害対策のため、堰を設置し定期的に浚渫すべき
- 堤防工事等の一方、内水対策も行うべき

4-2 自然環境への影響を考慮して治水工事を行うべき

- 極力自然を残し、環境影響が少ないような手法が望まれる(22)
- 河道掘削等で失われる自然環境は、復元すべき(14)

- 自然を守りながら都市の安全を確保することが両立できる手法はないか(10)
- 自然環境の保全を重要視すべき(6)
- 現状を維持し、自然を残すべき(3)
- 都市化しているので引き提や築堤は難しそうだが、川の自然は大切にしたい(3)
- 極力自然を残す。水害が起こった後の対策も大事
- ヨシ原など良好な自然を残せないか

4-3 治水工事にあたっては、河川空間の利用も考慮すべき

- 河川敷の遊び場や河川空間の自然を守るため、流域全体での対策に注力すべき(12)
- 河川空間を利用しやすくなるような整備が望ましい(8)
- 河川に治水機能のみではなく、自然観察などでもできるような教育機能も付加するべき(2)

4-4 コストと効果も考慮して、治水工事を進めるべき

- コストと効果を考慮しながら、治水工事は適切に行うべき(6)
- 治水工事は、効果が最大限に発揮されるよう、適切に行うべき(2)
- コストの観点から、河床を掘削すべき(2)
- 治水工事の際には事故やムダがないよう、適切に行うべき

4-5 治水工事に係わる情報提供が大切

- 工事の内容、目的、スケジュール等を明示すべき(3)
- 新たに移転してくる市民に正確な治水情報を提供すべき

5 水質の改善をどのように進めていくべきか？

5-1 泳げるくらい、安全に水とふれあえるくらい、多様な魚がすめるくらい、など、目標を立てて水質改善に取り組むべき

- 水質を今よりも改善すべき(14)
- 安心して泳げるくらいの水質にすべき(10)
- 多様な魚が棲めるように、水質を改善すべき(10)
- 子供などが安全に水とふれあえるくらいの水質が必要(3)
- 天然鮎が棲めるような川に(3)
- ゴミが流れていない川に
- 安心して飲めるような水に
- 魚が食べられるくらいきれいな水になると良い
- 魚が釣れて、子供が遊べるのが大事
- 黒川などにも流せるくらいきれいな水にすべき
- 川底が見えるくらいに、水質を改善すべき

5-2 この程度の水質を維持できればよいのではないかな

- 水質は改善してきている(6)
- ずいぶん良くなったので、この程度の水質で十分

5-3 水質を悪化させている根元を断つような対策を施すべき

- 工場排水や窯業水を規制して、濁っていない川に(4)
- 下水道整備を進め、水質改善したらどうか(2)
- 家庭排水が水質悪化の問題では(2)
- 上流での下水道整備をすすめるべき
- 水質改善のために各種装置を導入すべき
- 各市民が家庭排水に注意し、水質を改善すべき

5-4 市民の負担を考慮に入れた、水質改善対策を進めるべき

- 個人の負担が増えても構わないので、水質改善に取り組むべき
- 水質浄化のための市民負担は必要だが、なるべく抑えられるような工夫が必要

5-5 住民の意識改革を進め、水質改善につなげたらどうか

- まずは住民の意識改善が必要。そのためには、水質改善が住民にもたらす影響を示すべき(3)
- 川に関するデザインを小学生に募るなどすれば、河への愛着も生まれるのでは
- 誰にでも分かりやすいスローガン、取り組みを検討すべき

5-6 水質改善のためには河川管理の改善が必要ではないか

- 水質改善のため源流から河口まで一貫した管理が必要なのではないか

6 外来生物への対処をどうしていけばよいか？

6-1 在来生物を尊重し、外来生物を駆除できるよう、なんらかの対策を施すことが必要

- 在来生物の維持のため、外来生物を規制するような対策を施すべき(10)
- 駆除するのは困難だが、極力駆除するような努力はしていくべき。(6)
- 在来種が戻り、昔のように多様な魚が棲めるようになると良い

6-2 外来生物が入ってくるのは自然の摂理で仕方のないこと

- 外来生物が入ってくるのは自然の摂理。仕方がない(4)
- 現実的には駆除は難しい。仕方がない(2)

6-3 物理的に在来種と外来種を隔離して、共存できるようにできないか

- 在来種が逃げられるような工夫はできないか(3)
- 外来種を隔離するようなことはできないか(2)
- ビオトープ等によって生態系を守り、生物が増えるようにすべき

6-4 外来生物増加の原因や、外来生物の影響をまず明らかにすべき

- 外来種がどこから来るのか原因をあきらかにすべき
- 外来生物が環境に与える影響をまず明らかにすべき
- 川鵜の影響も明らかにすべき

6-5 外来生物を放す人のモラルが問題

- 外来種のペットを放したり、放流することはモラルの問題(2)

7 堤防道路をどのようにしていけばよいか？

7-1 サイクリングや散歩など安全に憩える空間にすべき

- 安全に散歩やサイクリングできる空間が必要(36)
- 歩行者優先のため、堤防道路への車の流入を規制すべき(5)
- 地域住民が憩える場としたい(3)
- 夜間も安全に散歩やサイクリングができるよう、整備すべき(3)
- 自転車で橋の下をくぐれるようになると良い

7-2 車の往来が激しく危険なので、安全な歩行と両立できるような工夫をすべき

- 堤防道路は車の通行が激しくてきわめて危険なので、安全性を改善すべき(15)
- 車の往来が激しく危険だが、便利なのでなんとか車の通行と安全な歩行とが両立できないか(7)
- 危険なので、大型車の流入を規制すべき(6)
- 今後も車が走行できるよう道路として整備するとともに、自転車や歩行者が安全に通行できるようにすべき(3)
- 両立が難しいので、どちらかに特化すべき

7-3 車が通行することで、堤防本来の治水機能を低下させることに繋がるのは心配

- 堤防道路は便利だが、治水上の問題に繋がると心配(18)
- 堤防道路を拡幅すれば、大雨時にも壊れる恐れが少なくなる(6)
- 車の走行に耐えられるよう、堤防を強化すべき(3)
- 大型車の通行による堤防の空洞化が心配なので、調査を行うべき
- 堤防が損壊するのを防ぐため、堤防道路への車の流入を規制すべき
- 道幅が狭く舗装が損壊しやすいため、大型車の流入を規制すべき

7-4 車の利便性よりも、自然環境の保全を優先して考えるべき

- 堤防道路は走りやすくて便利だが、自然破壊が心配(5)
- 車の利便性より、自然環境の保全を優先すべき(2)

7-5 車の騒音への対策を施すべき

- 騒音対策のため、河川敷に道路を通すべき
- 騒音対策のため、大型車の流入を時間規制すべき

7-6 河川敷の空間利用に応じて、堤防道路の使い方を考えるべき

- 河川空間へ安全にアクセスできるよう、堤防道路への車の流入を規制すべき(5)
- 堤防道路の充実よりも河川敷の有効利用を図るべき(3)
- 河川敷利用との調和を考えた利用形態とすべき(2)
- 歴史的価値の高いところへの車の流入は規制すべき

7-7 車の通行はやはり便利。より使いやすくなると良い。

- 堤防道路の走行性改善のため、ガードレールを

設置、車道を拡幅、信号の削除などをすべき(18)

- 堤防道路はとても便利なので、多少他のことに目をつむっても、車の利便性を優先すべき。(12)
- 今後も車が走行できるよう道路として整備すべき(11)
- 平面交差を立体化し、走行性を改善すべき(8)
- 堤防道路は便利。非常時の避難用にも有効なのではないか(7)
- 信号がないため走りやすい(5)
- 橋の架け替えや堤防の工事で走れないと困る(4)
- 堤防道路は走りやすいが、落ちそうで怖い(4)
- 市内の交通渋滞緩和のために堤防道路を活用すべき(3)
- 河川敷に遊びに行くのに堤防道路は便利
- 景色を眺めて楽しめるよう、退避所があるとよい
- 洪水時にも安全に通れる道路に改善すべき
- 砂埃が立たないように、堤防道路を適切に舗装すべき
- 照明設備を整え、堤防道路の走行性を改善すべき
- 多くの橋を設置をするなどして、堤防道路の走行性をより良くすべき

7-8 地域全体の道路交通問題として対処すべき

- 環状2号の開通を急ぐべき
- 国道302号を早く整備すべき
- 大型車が市内を走ると排ガスが問題。大型車規制はすべきでない
- 地域の交通状態を鑑み、適切な処置をすべき

8 河川空間をどのように利用、管理していくべきか？

8-1 遊んだり、憩える空間として利用できるようにすべき

- 河川敷でくつろげるように(4)
- サイクリングロードや散歩道のネットワーク化を図るべき(4)
- 水と親しめる空間があると良い(2)
- 川に気軽に遊びに行けるよう、駐車スペースやトイレ、水道があると便利(2)
- 川に近づきやすく、川沿いで憩える空間となると良い(2)
- 河川敷で子供が遊べるスペースがあると良い
- 河川敷でゴルフがしやすいようにすべき

8-2 災害時にも活用できる工夫が必要

- 遊ぶための場だけでなく、災害時にも有効に使えるような工夫が必要

8-3 付近の住民が利用しやすい河川敷に

- 住民が利用しやすい河川敷に(8)

8-4 自然を残すことが大事

- 自然を残し、人為的な整備は避けるべき(5)
- 一貫して自然の多い河川空間とすることが望ましい
- 生物が棲みよい環境にすべき

8-5 ゴミ対策や雑草対策を講じるべき

- 皆がゴミを捨てないような対策を講じるべき(8)
- 河川敷の下草の管理が場所によってまちまちで困る(2)
- 車からのゴミ捨てを防ぐため、草刈りを行う頻度を増やすべき
- 子供が安全に遊べるように草を刈るような管理が大事

8-6 河川空間を利用しやすくなるような情報提供が重要

- 河川敷にどうアクセスすればよいか行き方や駐車場利用の仕方がよく分からない(3)
- 河川空間でのイベントや歴史的情報などが入手しやすいと便利(2)
- 河川敷の清掃等の活動に関する情報の普及を促進

具体的な場所に関する意見

具体的な場所に関する意見のまとめ方

平成15年春以降、各地でオープンハウス、車座集会を実施し、具体的な場所に関連する課題、提案など、数多くの意見をいただきました。

ここでは、これまでに寄せられた意見のうち、具体的な場所に関して言及している全ての意見を取りあげて、区間ごとに整理し、沿川の図面上に示しました。これは、皆さんの即地的なニーズを表すものであり、課題を解決するために、具体的にどのような対策を施すべきかを検討するのに非常に有効な情報です。



空間区分

- 区間1：河口～大当郎橋付近
- 区間2：大当郎橋～枇杷島橋付近
- 区間3：枇杷島橋～勝川橋付近
- 区間4：勝川橋～下志段味橋付近
- 区間5：下志段味橋～玉野堰付近
- 区間6：玉野堰～記念橋付近
- 区間7：記念橋～三共橋付近
- 区間8：矢田川合流点～宮前橋付近

流域別

(流域全体／下流域／中流域／上流域／上中流域)

とりまとめた意見の見方

次頁以降で、空間区分ごとに整理した意見を、さらに概ねのエリアごとに分類して示しました。

各エリアに関する意見は同じ内容どうしで束ね、「意見の主旨」としてとりまとめています。また、計画づくりに反映しやすいように、同様の「意見の主旨」を集め、それぞれタイトルをふっています。

「■治水対策」のように太い色文字で書かれているのが「タイトル」です。

「◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。」のように「タイトル」と同じ色文字で書かれているのが「意見の主旨」を集約した「集約意見主旨」です。

「●」で始まるのが、意見を取りまとめた「意見の主旨」です。なお、極力原文に忠実にとりまとめています。

治水対策

◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(18)

- 土砂の堆積が心配。掘削は継続して行ってほしい。
- 河床が高いのが心配。
- 川幅が狭いため、洪水が不安。
- 特定の地区(西枇杷付近)だけでなく、流域全体の問題として捉えて対策を施すべき。
- JRの橋梁付近の工事がまだ済んでいないので不安。
- 東海豪雨で堤防が溢れそうになったので心配。
- 堤防を高くしてほしい。
- 橋梁高が不足しているため、洪水の要因にならないか不安。

◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(15)

- 堤防の石垣から水が噴き出すのが心配。
- 地震時の堤防や堤内地の液状化が心配。軟弱な地盤だということを考慮して対策を行ってほしい。
- 名鉄橋梁付近の堤防は大雨のたびに心配になる。
- 自然の摂理で堤防がえぐられてしまう。
- 堤防の水が台風などで揺すられて、堤防に影響を与えないか心配。

◇右岸と左岸で堤防高が違うのが納得できない。(2)

◇右岸側が犠牲になるのは昔からのことなので、仕方がないと思う。【小田井】

◇流域の保水能力を高めるべき。(2)

◇人工的ではなく、自然を生かした工法にするなどの工夫してほしい。(2)

「集約意見主旨」の後についている(数字)が元の意見の数です。1つしか意見がない場合には数値の記述はありません。

【括弧】内の地名等は、エリア内の特に具体的な場所について意見があることを示していて、そのうちの代表的な箇所を示しています。地名についても、極力原文に忠実にとりまとめています。

〔区間1〕河口～大当郎橋付近

■治水対策

- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(4)
 - 水の力が強いので、ブロックよりコンクリートにして欲しい。【河口】
 - 高潮堤が老朽化しているので対策を施してほしい。【河口】
- ◇洪水・水害の防止と干潟の保全の両立を。(3)
 - 干潟に鳥がくるのは嬉しいが、堤防が老朽化しているので心配。
 - 安全性を高めるために河道を掘るのは仕方ないが、干潟に影響が出ることが心配。
- ◇土砂の堆積が心配。(2)
 - 堤防を高くするといちごっこになるので、掘削するべき。【河口】
- ◇干潟の保全よりも安全性を重視すべき。
- ◇区画整理に伴う田の減少により水害の拡大が心配。

■水辺利用

- ◇子供などが安全に環境学習や自然観察できるビオトープや花畑、野鳥観察館などの場があると良い。(3)

■水辺へのアクセス

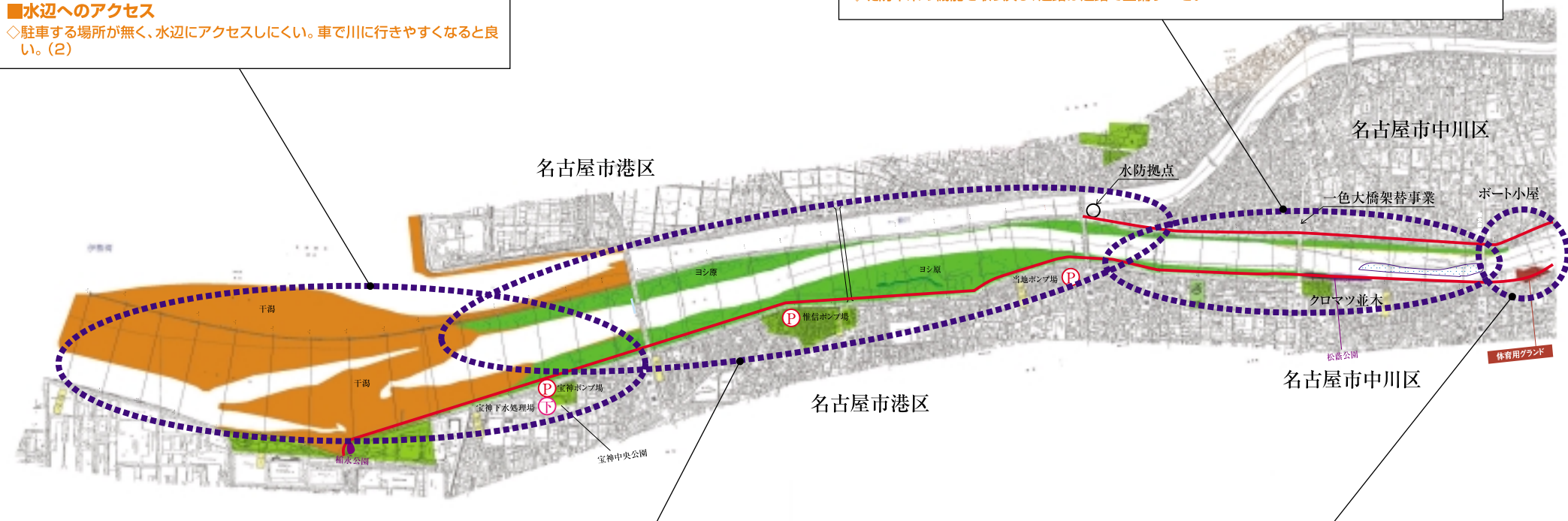
- ◇駐車する場所が無く、水辺にアクセスしにくい。車で川に行きやすくなると良い。(2)

■黒松並木

- ◇地域固有の河川景観保全や安全のため、自転車歩行者専用道路になっても、黒松並木は残すべき。(11)
 - 片側通行にして道路の幅を狭くし、黒松を残してほしい。
 - 通行止めにしても周辺道路への影響が少ないのなら、堤防道路は廃止しても良いのではないか。
 - 車は遠回りさせれば良い。
- ◇今ある黒松並木を保全するだけでなく、延長したい。(3)
 - 横井までつなげたい。
 - 空いている土地に植林できないか。
- ◇現状では道路が狭いため、交通の利便性を重視し、黒松は撤去すべき。
- ◇黒松の根は、堤防に悪影響を及ぼすのではないかな。

■堤防道路

- ◇すれ違いが困難であったり、見通しの悪い堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。(3)
 - 大型車が通ると小型車が落ちてきてしまうので大型車の通行を規制して欲しい。【正徳橋～横井山】
 - 橋詰の見通しが悪く、交通事故が起きている。【正徳橋】
- ◇河川整備による交通制限により、地区内に車が流入することが心配。
- ◇大型車の通行により堤防が弱体化するのではないかと不安。
- ◇堤防本来の機能を取り戻し、道路は道路で整備すべき。



■治水対策

- ◇昔よりも堤防が立派になったため、漏水などの心配は少なくなった。【明徳橋～正徳倍】
- ◇ヨシ原は保全してほしいが、根が堤防の弱体化を招かないか心配。

■自然環境・生態系

- ◇ヨシ原を残してほしい。
- ◇スズキヤボラ、サヨリなど、魚が生息しやすい川に。【国道1号から下流の湿地】

■景観

- ◇橋からの眺めが大変美しい。【明徳橋】

■堤防道路

- ◇道路幅が狭く、安全にすれ違えない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。(4)
 - 堤防道路の幅が狭く、橋梁と堤防道路の取り付きが心配。【南陽大橋】
 - 堤防の幅が狭いようで交通事故がよく起こる。標識設置や拡幅を検討して欲しい。【明徳橋左岸】
- ◇堤防道路を安全に自転車で行きたい。
- ◇河川整備による交通制限が心配。

■水辺利用

- ◇満潮時なども安全にかつ気軽に川と親しみたい。

■水面・水辺利用

- ◇下流の水面を利用して競技ボートを楽しみたい。(5)
 - ボートの船着き場の使い勝手が悪いので改良したい。
 - ボートを、学生だけでなく社会人になってからも楽しめる環境をつくって欲しい。
- ◇ボート練習場を活用して、地域の人々が川に親しんだり、防災施設として利用できる場所がつけると良い。(4)



〔区間2〕大当郎橋～枇杷島橋付近

■治水対策

◇環境保全も大事だが、治水を一番に考えるべき。

■河川敷利用

◇子供とモトクロスを楽しみたい。

■河川敷へのアクセス

◇河川敷に気軽に行きたいが、堤防道路の車が危険。
河川敷に安全にアクセスできると良い。(2)
●堤防道路に歩道や横断歩道を作してほしい。

■堤防道路

◇カーブがきつくて車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。【横井大橋付近】
◇堤防道路を安全に走れるように、アンダーパスの自転車道があると良い。【万場】

■河川敷利用

◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)
●子供も安心して遊べる公園があると良い。

■水辺利用

◇気軽に水と親しみたい。

海部郡甚目寺町

清須市

名古屋市中村区

■治水対策

◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)
●堤防を高くしてほしい。【リバーランド付近】

■生態系

◇キジの産卵場所を守り、より棲みやすい環境に。【豊公橋～東海道本線橋梁】

■河川敷利用

◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(6)
●庄内緑地公園のようにしてほしい。

◇川沿いで安全に、憩い、散策したい。(3)

●よく散歩をする。
●遊歩道の整備と植樹をしてほしい。【枇杷島橋～豊公橋】

◇河川敷で野菜づくりを楽しみたい。(3)
●農協の協力で行っていたレジャー農園がなくなって寂しい【枇杷池】

◇河川を生かした、花火大会やソフトボール大会などのイベントが楽しみ。(2)

■自然環境・生態系

◇工事中は河川敷の動植物に与える影響を考慮すべき。(4)

●激特工事で木を切ったことにより、ヒヨドリやムクドリの棲む場所がなくなった。

●激特工事が始まり掘削によって出たミズを餌にするカラスが増えた。

◇河川敷で犬を心配せずに子供が遊べるようになるとよい。
◇河川敷内の公園緑地へのアクセスを残したい。

■水辺利用

◇気軽に水を親しみたい。(4)

●最近の工事で水面が見えるようになって良いと思う。【リバーランド】

●誰もが水辺で憩える場となると良い【リバーランド】

◇気軽に水を親しみたい。

◇水に近づきにくい。気軽に水辺にアクセスでき、水をふれあえると良い。

◇人工的ではなく、川のせせらぎを感じられる現状を維持したい。

■堤防道路

◇堤防道路の交通量が多いため、騒音や排気ガスがひどい。堤防の下に道路を通せば対策になるのではないか。【枇杷島下流左岸】

■治水対策

◇堤防が弱く、漏水が起こっている。安全性を高めるべき。【中須地区】
◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(4)

●橋梁高が不足しているため、洪水の要因にならないか不安。【近鉄橋梁】

●堤防が低く、洪水・水害が不安。【新川・庄内川に挟まれた地区】

■自然環境・生態系

◇ビオトープを保全してほしい。【近鉄橋梁-新前田橋交差点】(2)
◇自然を残すことが大事。

■河川敷利用

◇満潮時なども安全にかつ気軽に川と親しみたい。【大当郎橋付近】

◇遊歩道や公園、花畑などは、つくった後の維持管理をきちんと行って欲しい。【前田橋付近】

■河川敷へのアクセス

◇河川敷に気軽に行きたいが、堤防道路の車が危険。河川敷に安全にアクセスできると良い。(3)

●車道を横切らずに水辺に降りられると良い。

◇河川敷に下りにくい。バリアフリーの階段などがあると良い。

◇主要な橋から河川敷に安全にアクセスしたい。

■河川敷のゴミ

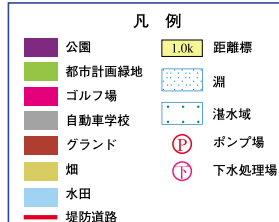
◇河川敷や堤防に草木が生い茂り、ゴミが溜まりやすく見た目も良くない。対策を講じるべき。【前田橋付近】

◇ゴミをなくすための市民の活動の場があると良い。

■堤防道路

◇堤防道路から車が落ちてくることもあるので対策を講じてほしい。

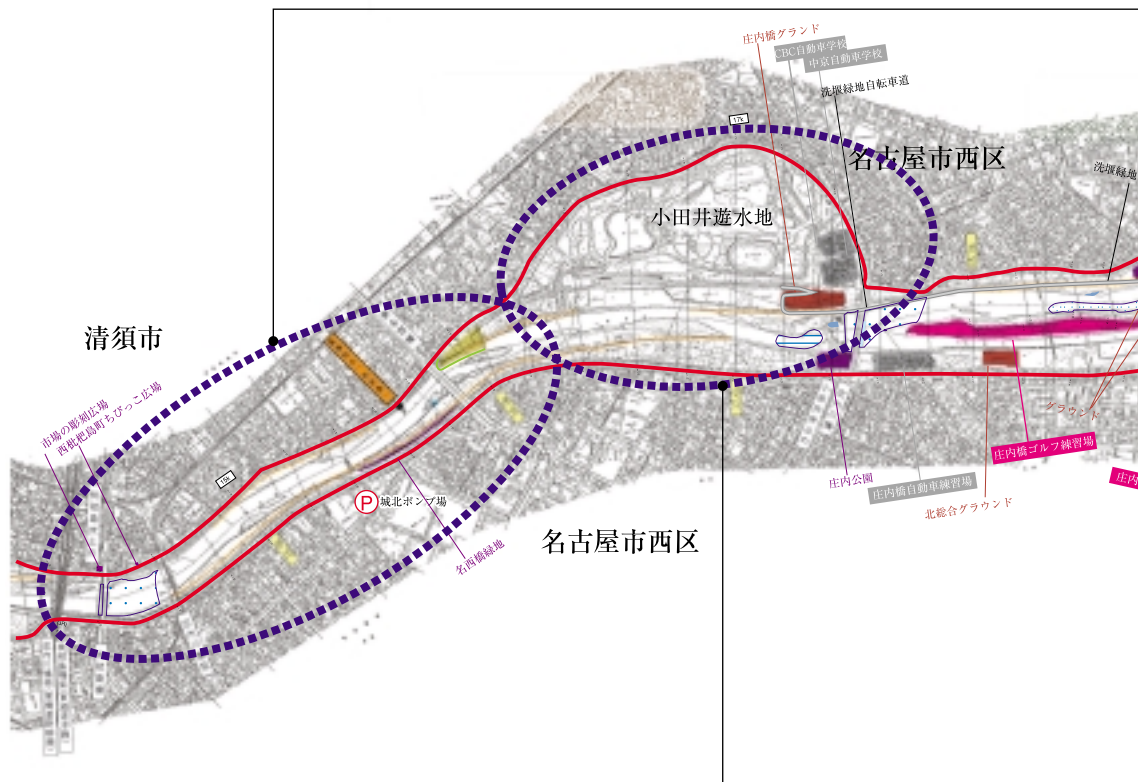
◇堤防道路の大型車の交通量を減らすため、周辺道路を整備してほしい。



土岐川庄内川 5.0k～14.0k



〔区間3-1〕枇杷島橋～庄内川橋付近



■治水対策

- ◇洪水・水害の防止と環境保全の両立を。(3)
 - 治水の妨げにならない場所には植樹をしてほしい。
- ◇土砂の堆積が心配。(2)
- ◇堤防の強度が心配。
- ◇流域全体や支川を見通した計画づくりを。
- ◇流域の保水能力を高めるべき。
- 水質
 - ◇水が汚い。きれいな水になると良い。(3)
 - 水質浄化作用のある樹木を植えてほしい。
 - 浄化装置を付けた船を実験的に浮かべてみてどうか。

■自然環境

- ◇カワセミやススキなどの動植物を守り、より棲みやすい環境に。(3)

■水辺利用

- ◇子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。
- ◇ボートやカヌーで遊べるように。

■河川敷利用

- ◇庄内緑地公園で安全に、憩い、散策したい。(8)
 - 水辺や対岸が見えるように、草を刈り込んだ場所があると良い。
 - 途中でとぎれてしまっている遊歩道やサイクリングロードをつなげてほしい。
 - 左岸側と右岸側を自転車を通れる橋でつなぎ、両方併せて公園として利用したい。
- ◇昔よく川遊びした思い出の場所をのこしたい。
- ◇庄内緑地公園を利用しやすくするために、無料の駐車場があると良い。
- 堤防道路
 - ◇堤防道路を安全に歩きたい。(2)
 - 歩道や信号を設置してほしい。
 - ◇堤防道路の渋滞を解消してほしい。

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(18)
 - 土砂の堆積が心配。掘削は継続して行ってほしい。
 - 河床が高いのが心配。
 - 川幅が狭いため、洪水が不安。
 - 特定の地区(西枇杷付近)だけでなく、流域全体の問題として捉えて対策を施すべき。
 - JRの橋梁付近の工事がまだ済んでいないので不安。
 - 東海豪雨で堤防が溢れそうになったので心配。
 - 堤防を高くしてほしい。
 - 橋梁高が不足しているため、洪水の要因にならないか不安。
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(15)
 - 堤防の石垣から水が噴き出すのが心配。
 - 地震時の堤防や堤内地の液状化が心配。軟弱な地盤だということを考慮して対策を行ってほしい。
 - 名鉄橋梁付近の堤防は大雨のたびに心配になる。
 - 自然の摂理で堤防がえぐられてしまう。
 - 堤防の木が台風などで揺すられて、堤防に影響を与えないか心配。
- ◇右岸と左岸で堤防高が違うのが納得できない。(2)
- ◇右岸側が犠牲になるのは昔からのことなので、仕方がないと思う。【小田井】
- ◇流域の保水能力を高めるべき。(2)
- ◇人工的ではなく、自然を生かした工法にするなどの工夫してほしい。(2)
- ◇洪水・水害の防止と環境保全の両立を。
- ◇治水を一番に考えるべき。
- ◇水害時に安全に避難できるか心配。
- ◇河床の立体的利用などによる放水路や支川との流量調節で洪水を防げないか。

■水質

- ◇川の水が汚い。きれいな水になると良い。(3)
- ◇泳げるくらいきれいな川にしたい。(2)
- ◇水質向上などの流域全体の問題解決のため、上下流の市町村の連携が図れないか。

■自然環境・生態系

- ◇カモやサギなどを守り、より棲みやすい環境に。【枇杷島界隈】(3)
- ◇魚が生息しやすい川に。

■景観

- ◇地域固有の自然が残る美しい川の風景が大切。(4)
- ◇川と周辺の自然を総合的に保全してほしい。

■水辺利用

- ◇魚釣りを楽しめるような場や支援を期待。
- ◇子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。
- ◇気軽に水と親しみたい。
- ◇昔よく川遊びした思い出の場所をのこしたい。

■河川敷利用

- ◇川沿いで安全に、憩い、散策したい。(9)
 - 散歩に利用している。
 - まちの中には安心して遊んだり歩いたりできる場がないので、川側に期待。
- ◇河川敷で安全に遊べる場所があると良い。(5)
 - 右岸側だけでなく左岸側もあわせて公園として整備してほしい。【庄内橋下流】
 - 昔は河川敷でよく遊んだが、今では堤防道路の交通量が多くとても危険。
- ◇ホームレスが住んでいるため、関係機関が連携して解決に向けて取り組むことが必要。(3)
- ◇河川敷で野菜づくりを楽しみたい。(2)
 - お年寄りも日常的に使えるような河川敷の利用方法を考えてほしい。
- ◇特定の人達だけが利用できる畑地としてではなく、誰もが気軽に利用できる河川敷であるべき。

■河川敷のゴミ

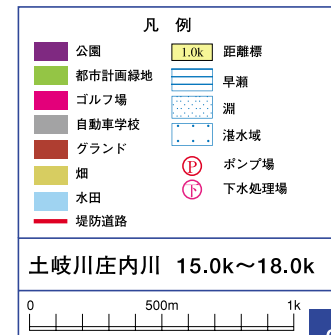
- ◇河川敷や堤防に草木が生い茂り、ゴミが溜まりやすく見た目も良くない。対策を講じるべき。(2)

■堤防道路

- ◇堤防道路の通行量が多いため、騒音や排気ガスがひどい。(3)
- ◇車だけではなく人も安心して歩ける堤防道路に。(2)
- ◇対岸に安全に徒歩や自転車で行きたい。
- ◇車は堤防の下を通し、堤防道路は車両通行止めにするべき。

■歴史・文化

- ◇沿川のまちづくりとの連動が大切。(6)
 - 美濃路街道と枇杷島橋と庄内川は名古屋に入る入口であり、西枇杷は玄関をもっていることになることにも配慮して欲しい。
 - 災害に強い安心で安全なまちづくりを進め、庄内川と共存・共栄するまちづくりをしていきたい。
 - みのじまちづくりと連動した河川整備を。
- ◇川づくりにも地域固有の歴史や文化を取り入れてほしい。(5)
- ◇大規模工事により、地域の歴史的資源や住民との関係が変わるのが心配。(2)
 - まつりや山車、橋詰神社などや、住民との関係を大切にしたい。
 - 地域の歴史や文化を考慮して改修工事を行ってほしい。



〔区間3-2〕庄内川橋～勝川橋付近

■治水対策

- ◇洗堰からの越流で新川が洪水にならないように。(29)
 - 新川の問題も考慮すべき。
 - 洗堰を閉めきってほしい。
 - 洪水は不安だが、洗堰は閉めきらないでほしい。
 - 洗堰を嵩上げし、かつ、新川を耐えられる川にすべき。
 - 洗堰がなくて各々の河川で処理できるようにするべき。
 - ポンプを上手く使って対策できないか。
 - 工事を早急にしてほしい。
- ◇洪水・水害の防止と環境保全の両立を。(4)
- ◇流域の保水能力を高めるべき。(3)
 - 浸透性の高い舗装にするなど、流域全体での対策が必要。
 - 開発と貯留池のバランスがとれていないのが心配。
- ◇水害時に安全に避難できるか心配。洗堰に水防拠点を整備してほしい。(2)
- ◇水はけが悪くて困る。(2)
- ◇上流から流れてくる水についても考慮し、流域全体や支川を見通した計画づくりを。
- ◇水害対策への補助制度をつくってほしい。

- 自然環境・生態系
 - ◇蛇池の桜並木を残したい。(3)
 - ◇ジャコウアゲハやジャコウアゲハの餌であるウマノスズクサなど珍しい動植物を守りたい。

- ◇100年に1回の豪雨への対策よりも、自然を取り戻すことを優先すべき。

■河川敷利用

- ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)

- ◇川沿いで安全に、散歩したい。

■河川敷へのアクセス

- ◇河川敷に下りにくい。安全かつ気軽に河川敷に下りられると良い。(2)

■堤防道路

- ◇堤防道路を通る自動車が堤防に与える影響が心配。
- ◇対岸に安全に徒歩や自転車で行きたい。

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(5)
 - 庄内川と矢田川に挟まれた区間の安全性を確保してほしい。
 - 畑地が冠水しないか心配。【かえる公園付近】
 - 八田川への逆流による洪水・水害が心配。
 - 土砂の堆積が心配。
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(2)
 - 庄内川と矢田川に挟まれた区間の堤防を強化してほしい。
- ◇洪水・水害の防止と環境保全の両立を。
- ◇河床の立体的利用などによる放水路や支川との流量調節で洪水を防げないか。

■自然環境・生態系

- ◇キジ、イノシシ、タヌキ、カメ、カワウなどを守り、より棲みやすい環境に。

■水質

- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。(2)

■河川敷利用

- ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)

- ◇川沿いで安全に、散歩したい。

■水辺利用

- ◇魚釣りを楽しめるような場や支援を期待。

■堤防道路

- ◇堤防道路を通る自動車が堤防に与える影響が心配。

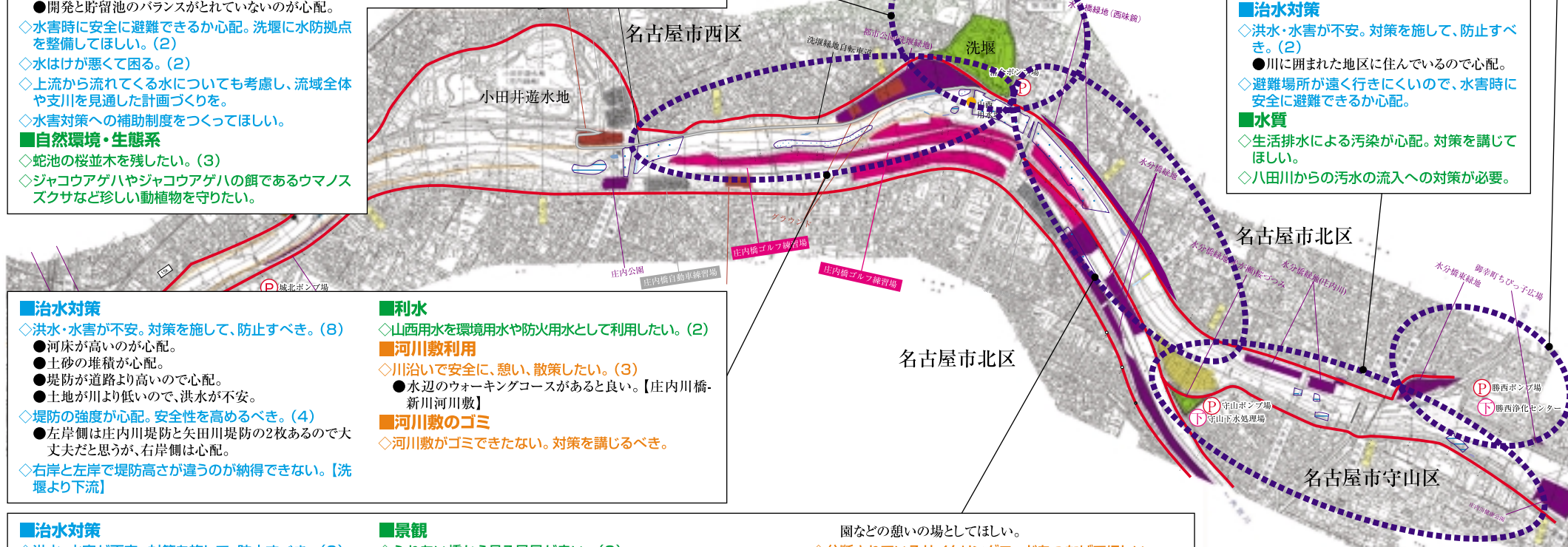
■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)

- 川に囲まれた地区に住んでいるので心配。
- ◇避難場所が遠く行きにくいので、水害時に安全に避難できるか心配。

■水質

- ◇生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇八田川からの汚水の流入への対策が必要。



■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(8)
 - 河床が高いのが心配。
 - 土砂の堆積が心配。
 - 堤防が道路より高いので心配。
 - 土地が川より低いので、洪水が不安。
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(4)
 - 左岸側は庄内川堤防と矢田川堤防の2枚あるので大丈夫だと思うが、右岸側は心配。
- ◇右岸と左岸で堤防高さが違うのが納得できない。【洗堰より下流】

■利水

- ◇山西用水を環境用水や防火用水として利用したい。(2)

■河川敷利用

- ◇川沿いで安全に、憩い、散歩したい。(3)
 - 水辺のウォーキングコースがあると良い。【庄内川橋・新川河川敷】

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷がゴミでかたない。対策を講じるべき。

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)
 - 河床が高いのが心配。
 - 土砂の堆積が心配。
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。
- ◇以前は水はけが悪かったが、工事によって良くなった。
- ◇治水対策が最も重要だが、環境保全についても考えてほしい。
- ◇市民の一人一人が水害対策への意識を持つことが重要。

■自然環境・生態系

- ◇ふれあい橋付近に野鳥の観察所があると良い。
- ◇ふれあい橋付近にビオトープを作りたい。

■景観

- ◇ふれあい橋から見る風景が良い。(2)

■水質

- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。(4)

- 昔は泳げるくらいきれいだった。
- 昔は水が飲めるくらいきれいだった。
- 魚が棲めるくらいきれいな川にしたい。

- ◇魚が戻ってきているので水はきれいになっていると思う。

■河川敷利用

- ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(6)

- ふれあい橋の活用方法について考えていきたい。
- 名古屋市の中でも自然や風景が良いところなので、総合公

- 園などの憩いの場としてほしい。
- ◇分断されているサイクリングロードをつなげてほしい。
- ◇川沿いで安全に、憩い、散歩したい。
- 水辺利用
 - ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(2)
 - ◇気軽に水と親しみたい。
 - ◇魚釣りを楽しめるような場や支援を期待。
- 河川敷のゴミ
 - ◇河川敷に草木が生い茂り、ゴミが溜まりやすく見た目も良くない。対策を講じるべき。
 - ◇ペットのフンの処理など、河川敷の利用者のマナー向上を。



〔区間4-1〕勝川橋～上条グラウンド付近

■自然環境・生態系

- ◇メダカ、ホタル、チョウ、カワセミや野菊などの動植物を守り、より棲みやすい環境に。

■水辺利用

- ◆子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びができるように。
- ◆水に近づきにくい。気軽に水辺にアクセスでき、水とふれあえると良い。
- ◆人工的ではなく、自然を生かした水辺が良い。

■河川敷利用

- ◇子供が安全に自然とふれあえる河川敷がよい。(2)

■治水対策

- ◆洪水・水害が心配。対策を施して、防止すべき。(10)
- 川中の樹木が流下の妨げにならないか心配。【下津】
 - 堤防が低いので不安。高くしてほしい。【下津】
 - 土砂の堆積が心配。
 - 堰堤は川の流れを阻害しているため、撤去すべき。【下津】
 - 支川から流入した水がで洪水が起きないか不安。川幅を広げてほしい。

◆堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(4)

■水質

- ◆川が汚い。美しい川に。(3)
- 水が汚い。誰もが安心してふれあえるきれいな水になると良い。
 - ゴミの流れていない美しい川に。

■景觀

- ◇家庭菜園の景観をより良くすべき。

■河川敷利用

- ◆川沿いで安全に、憩い、散策したい。(4)
- 緑の回廊をつくりたい。【内津川合流点から松川橋】
 - 遊歩道などをつくれば、庄内川に関心を持つようになるのでは。

- ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(4)

■河川敷へのアクセス

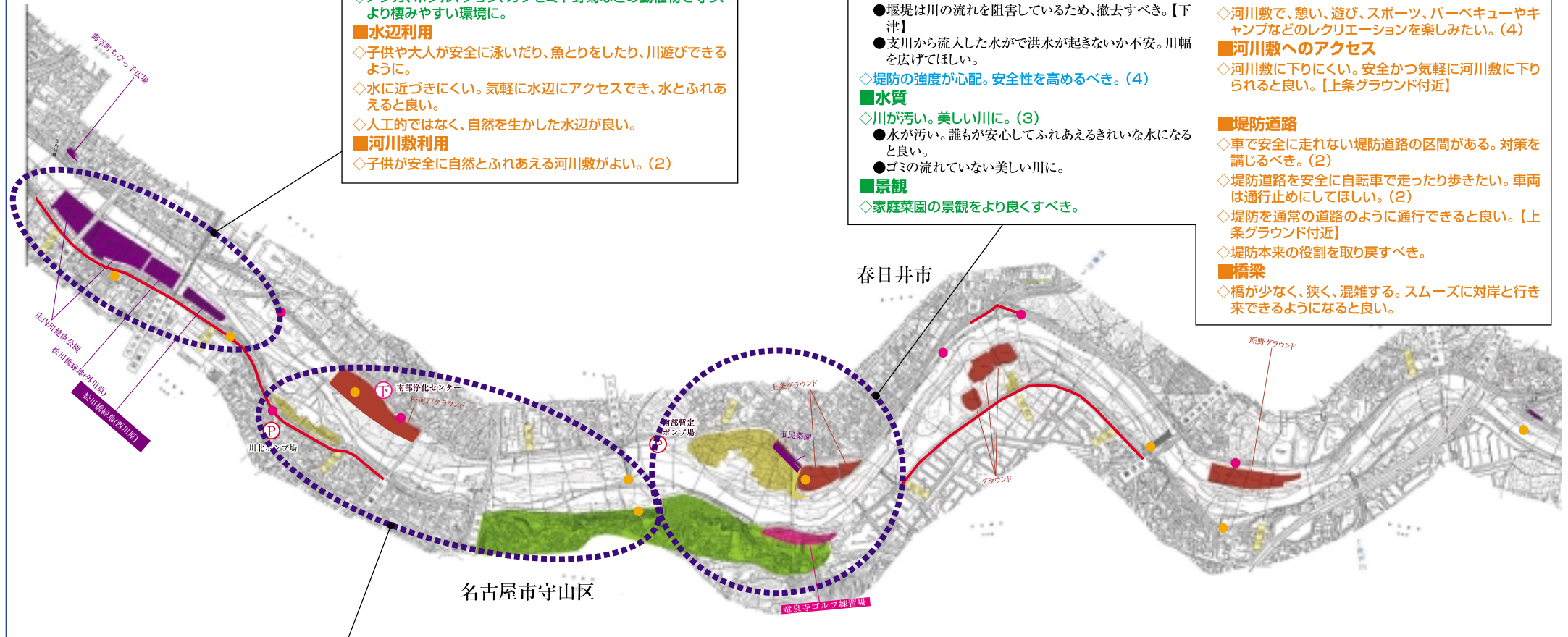
- ◇河川敷に下りにくい。安全かつ気軽に河川敷に下られると良い。【上条グラウンド付近】

■堤防道路

- ◇車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。(2)
- ◇堤防道路を安全に自転車で行ったり歩きたい。車両は通行止めにしてほしい。(2)
- ◇堤防を通常の道路のように通行できると良い。【上条グラウンド付近】
- ◇堤防本来の役割を取り戻すべき。

■ 桥梁

- ◇橋が少なく、狭く、混雑する。スムーズに対岸と行き来できるようになると良い。



■治水对策

- ◆洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)
 - 土砂の堆積が心配。
 - 河川敷が水に浸からないようにしてほしい。
- ◆堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。
- ◆流域全体や支川を見通した計画づくりを。

■水質

- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。

■自然環境・生態系

- ◇ヨシ原を残してほしい。【松川橋-竜泉寺】

■景觀

- ◇地域固有の風景を大切に。

■河川敷利用

- ◆河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(5)
●普通の車が入れる場所で自由にバーベキューとかできるとよい。
- ◆現在草が生い茂っている川辺が公園などの遊べる場になるとうれしい。(3)

- ◇川沿いを安全に、散策したい。(2)

- ◇河川敷で犬と遊べると良い。

- ◇ゴルフ場ではなく、誰もが気軽に利用できる河川敷であるべき。

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。
- ◇子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。

■河川敷のゴミ

- ◆河川敷や堤防道路の周辺がゴミでできない。対策を講じるべき。(6)
- 川でバベキユードなどを行うのは良いが、後片付けがされていない。【松川橋付近】
 - サイクリングロードにゴミが多いのできれいにしてほしい。【庄内川大橋上流右岸】
 - 堤防への不燃物の投げ捨ては厳しく罰するべき。【中切町付近】
 - 川の中に原付が沈んでいたのを、速やかに対応してほしい。

■河川敷へのアクセス

- ◆河川敷に下りにくい。安全かつ気軽に河川敷に下りられると良い。(2)
- ◆河川敷の駐車場が舗装されていないため、車が汚れて困る。
- ◆駐車する場所が無く、河川敷にも車で入りにくい。車で川に行きやすくなると良い。

■堤防道路

- ◆堤防道路は危険なので交通制限をするべき。

凡 例

	公園		距離標
	都市計画緑地		ポンプ場
	ゴルフ場		下水処理場
	自動車学校		
	グラウンド		
	畑		
	水田		
	堤防道路		

〔区間4-2〕上条グラウンド～下志段味橋付近



名古屋市守山区

春日井市

- 治水対策**

 - ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(15)
 - 地震時の堤防や堤内地の液状化が心配。
 - ◇洪水・水害が不安。対策を施して防止すべき。(10)
 - 用水への逆流による洪水・水害が心配。
 - 水害常襲地の被害を軽減してほしい。【桜佐町・熊野町】
 - 土砂の堆積が心配。
 - 河床が高いのが心配。
 - 土地が川より低いので、洪水が不安。
 - 区画整理による水害の拡大が心配。
 - ◇水はけが悪くて困る。【桜佐町】
 - ◇治水を一番に考えるべき。
 - ◇流域の保水能力を高めるべき。
 - ◇昔からの水害の経緯をふまえた計画づくりを。
 - ◇沿川のまちづくりと連動した計画づくりが大切。

■水質

 - ◇川がきたない。美しい川に。(2)
 - 水が汚い。きれいな水になると良い。
 - ゴミの流れていない美しい川に。
- 自然環境・生態系**

 - ◇必要な対策のみを行い、自然を残すことが大事。(3)
 - ◇魚が棲息しやすい川に。(3)
 - ◇昔から生息している動植物を守り、より棲みやすい環境に。(2)

■利水

 - ◇上条用水を通年通水し、親水性を高められると良い。(2)

■水辺利用

 - ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(2)

■河川敷利用

 - ◇川沿いを安全に、散策したい。(3)
 - ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)
 - ◇特定の企業が占用するのではなく、誰もが気軽に利用できる河川敷であるべき。

- 河川敷のゴミ**
- ◇河川敷や堤防に草木が生い茂り、ゴミが溜まりやすく見た目も良くない。対策を講じるべき。(2)
 - ツタが繁殖してしまっている。【五反田橋】
 - 市民や企業による不法投棄をなくすよう呼びかけてほしい。【五反田橋】
- 河川敷へのアクセス**
- ◇駐車する場所が無く、河川敷にも車で入りにくい。車で川に行きやすくなると良い。
- 堤防道路**
- ◇堤防の天端が荒れていたり、道幅が狭いため、車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。(2)
 - ◇堤防を車で走行できない区間があって困る。(2)
 - 堤防を強化すれば、車も通行可能になるのでは。
 - ◇堤防道路を安全に自転車で走りたい。

- 治水対策**
- ◇土砂が堆積しており、洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。
- 河川敷利用**
- ◇川沿いを安全に、散策したい。
 - ◇河川敷を荒らさないように車の進入などの制限をしてほしい。
- 河川敷のゴミ**
- ◇河川敷や堤防道路の周辺がゴミがきたない。対策を講じるべき。

凡 例

公園	1.0k	距離標
都市計画緑地	P	ポンプ場
ゴルフ場	ト	下水処理場
自動車学校		
グラウンド		
畑		
水田		
堤防道路		

土岐川庄内川 28.0k～32.0k

0 500m 1k

〔区間5〕下志段味橋～玉野堰付近

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(3)
- 高台の避難場所があると良い。【神領】
- 土砂の堆積が心配。

■自然環境・生態系

- ◇魚や鳥などの動植物を守り、より棲みやすい環境に。【庄内川橋梁】

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷にゴミが多く、危険なものも落ちている。対策を講じるべき。

■水質

- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。(4)
- ゴミ処理場からの汚水の流入が心配。
- 生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。

■景観

- ◇自然豊かなすばらしい溪谷美。維持していくことが大事。(5)
- 自然の中を電車が走る風景も美しい。
- ◇渡しのあった歴史的な場所を大切に。

■自然環境・生態系

- ◇自然を残すことが大事。(4)

■河川敷利用

- ◇河川敷で、釣り、キャンプ、バーベキューなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)
- ◇川沿いで安全に、散策したい。(2)

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、川遊びできるように。(4)

■河川敷へのアクセス

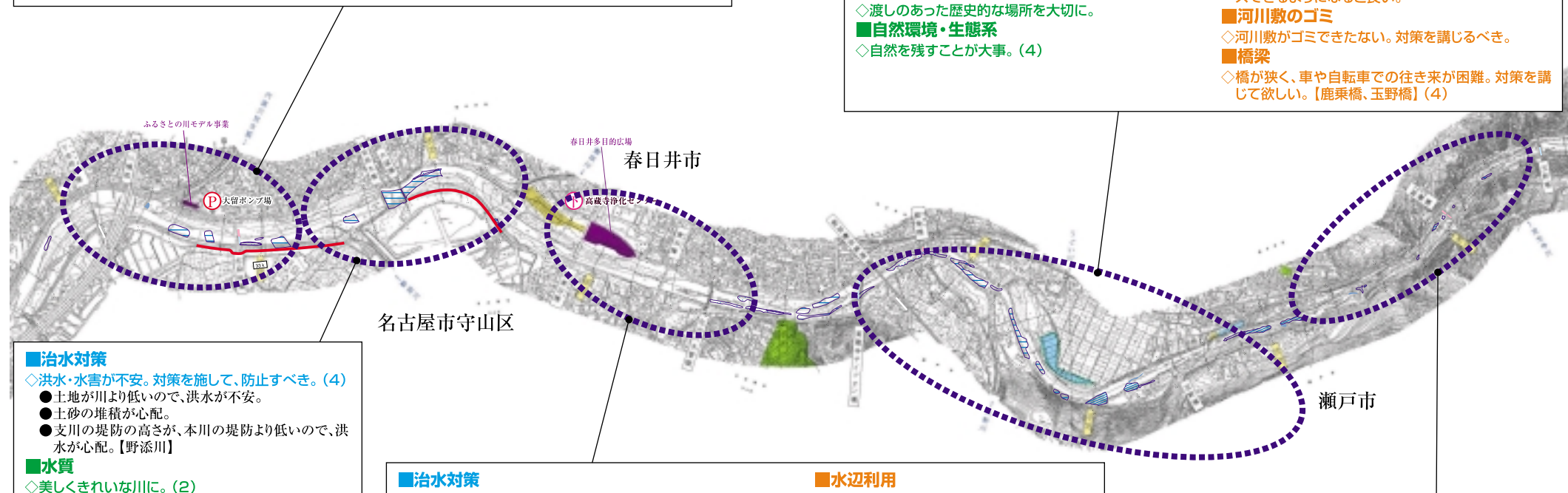
- ◇定光寺周辺の景勝地に安全かつスムーズにアクセスできるようにと良い。

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷にゴミが落ちた。対策を講じるべき。

■橋梁

- ◇橋が狭く、車や自転車での往き来が困難。対策を講じて欲しい。【鹿乗橋、玉野橋】(4)



■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(4)
- 土地が川より低いので、洪水が不安。
- 土砂の堆積が心配。
- 支川の堤防の高さが、本川の堤防より低いので、洪水が心配。【野添川】

■水質

- ◇美しくきれいな川に。(2)

■自然環境・生態系

- ◇魚や鳥などの動植物を守り、より棲みやすい環境に。【志西の森、大留橋、野添川】(4)
- ◇竹藪を手入れして保全したい。

■河川敷利用

- ◇川沿いで安全に、憩い、散策したい。(4)
- 桜の木を植えることはできないのだろうか。【大留ボンプ場付近】
- 木がなくなってしまったので、堤防に植栽して欲しい。【大留橋】

- ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。

- ◇渡しのあった歴史的な場所なので、美しく景色の中を散策できるようにしておきたい。【大留・大日渡し】

■水辺利用

- ◇人工的ではなく、自然を生かした水辺が良い。(2)
- 魚のためにも自然の堤防で、コンクリートで固めないで欲しい。【大留橋】
- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(2)

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)
- 氾濫が心配なので堤防がつくられるとよい。【東谷橋下流】
- 土砂の堆積が心配。

■水質

- ◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。

■自然環境・生態系

- ◇自然を残すことが大事。(2)
- 竹藪を手入れして保全したい。
- ◇魚やカメなどを守り、より棲みやすい環境に。(2)

■景観

- ◇地域固有の自然が残る美しい川の風景が大切。

■河川敷利用

- ◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(4)
- 河川敷に子供などとおそべる公園が欲しい。【新東谷橋付近】
- キャンプができると良い。【高蔵寺の辺り】

- ◇川沿いで安全に、散策したい。(2)

- ◇畑としてではなく、誰もが気軽に利用できる河川敷であるべき。

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に川遊びできるように。(5)
- ◇魚釣りを楽しめるような場や支援を期待。
- ◇人工的ではなく、自然を生かした水辺が良い。

■河川敷へのアクセス

- ◇駐車する場所が無く、河川敷にも車で入りにくい。車で川に行きやすくなると良い。【東谷橋～新東谷橋】

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷にゴミが落ちた。対策を講じるべき。(6)

- バーベキューや花火のゴミなどが散乱してきている。【新東谷橋付近】
- 産業廃棄物なども捨てられている。【東谷橋下流】

■堤防道路

- ◇堤防道路を通る車が多いため、騒音や排気ガスがひどい。【東谷橋上流】
- ◇堤防道路が狭く、東谷橋の下流(右岸)に乗り入れるのが大変。

■自然環境・生態系

- ◇鳥類が棲息しやすいように配慮すべき。

■水質

- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。(3)
- 生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。

■景観

- ◇自然豊かなすばらしい溪谷美。維持していくことが大事。

■橋梁

- ◇橋が狭く、車や自転車での往き来が困難。対策を講じて欲しい。【定光寺橋】



〔区間6〕玉野堰～記念橋付近

■水質

◇ゴミ処理場からの汚水の流入が心配。

■自然環境・生態系

◇魚にとっても、鳥にとっても棲息しやすい川に。(2)

◇上流からの土砂流出がオオサンショウウオに与える影響が心配。

◇自然を残すことが大事。

■景観

◇自然豊かな素晴らしい渓谷美。維持していくことが大事。(4)

■川沿いでの活動

◇川沿いを安全に、散策したい。(10)

●愛岐道路は車が通り、路肩も狭く、歩行者にとって危険。川沿いを安全に歩けるようにして欲しい。車も止められるとよい。

●川沿いを歩けないので、歩道などが設置されるとうれしい。

●車からしか桜などが見られないのは残念。

■治水

◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(4)

◇山を削ったりすることやゴルフ場開発などが水かさや川の水かさを一気に上げている原因と思われるので、対策を施すべき。(3)

◇堤防や橋梁の耐震性が不安。

■水質

◇泳げるくらいきれいな川にしたい。(2)

◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。

◇化学物質の流入による汚染が心配。対策を講じてほしい。

■自然環境・生態系

◇魚にとっても、鳥にとっても生息しやすい川に。(4)

■景観

◇周辺の街や環境と調和したきれいな川に。(13)

●川沿いには歴史的な史跡等が多く残り、そういうものを大切にしていきたい。

■水辺利用

◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(2)

◇子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。

◇人工的ではなく、自然を生かした水辺が良い。

■河川敷利用

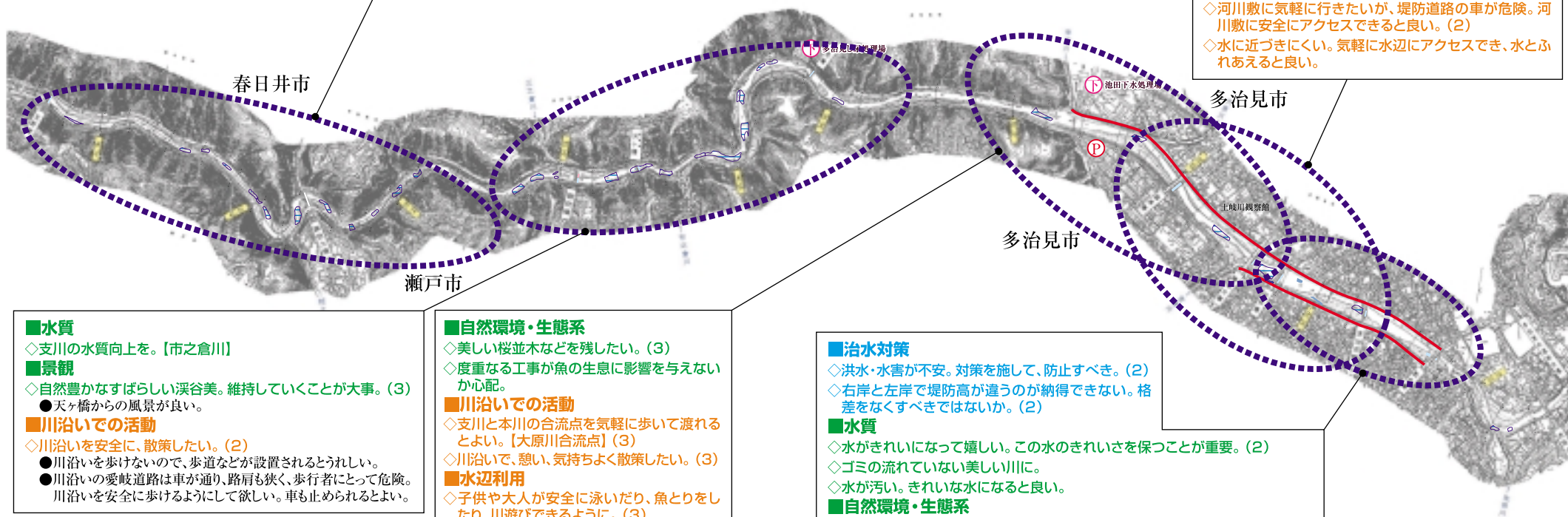
◇川沿いで、憩い、気持ちよく散策したい。

◇河川を生かした、花火大会や伝統行事などのイベントが楽しみ。

■河川敷へのアクセス

◇河川敷に気軽に行きたいが、堤防道路の車が危険。河川敷に安全にアクセスできると良い。(2)

◇水に近づきにくい。気軽に水辺にアクセスでき、水とふれあえると良い。



■水質

◇支川の水質向上を。【市之倉川】

■景観

◇自然豊かな素晴らしい渓谷美。維持していくことが大事。(3)

●天ヶ橋からの風景が良い。

■川沿いでの活動

◇川沿いを安全に、散策したい。(2)

●川沿いを歩けないので、歩道などが設置されるとうれしい。

●川沿いの愛岐道路は車が通り、路肩も狭く、歩行者にとって危険。川沿いを安全に歩けるようにして欲しい。車も止められるとよい。

■治水対策

◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(12)

●狭陰部の手前は頻繁に洪水が起きる。対策を施して、防止すべき。

●土砂が堆積し、河床が高くなってきているため、洪水が心配。

●支川への逆流による洪水・水害が心配。

●川より土地が低いところがあり、浸水が不安。

◇右岸と左岸で堤防高が違うのが納得できない。格差をなくすべきではないか。(2)

◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。

■景観

◇地域固有の自然が残る美しい川の風景が大切。

■自然環境・生態系

◇美しい桜並木などを残したい。(3)

◇度重なる工事が魚の生息に影響を与えないが心配。

■川沿いでの活動

◇支川と本川の合流点を気軽に歩いて渡れるとよい。【大原川合流点】(3)

◇川沿いで、憩い、気持ちよく散策したい。(3)

■水辺利用

◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(3)

■河川敷利用

◇河川を生かした、花火大会や伝統行事などのイベントが楽しみ。(4)

◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)

■河川敷のゴミ

◇河川敷や堤防道路の周辺がゴミでできない。対策を講じるべき。(4)

■堤防道路

◇堤防道路を安全に自転車で走りたい。

◇ガードレールがなく、車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。

■治水対策

◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)

◇右岸と左岸で堤防高が違うのが納得できない。格差をなくすべきではないか。(2)

■水質

◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。(2)

◇ゴミの流れていない美しい川に。

◇水が汚い。きれいな水になると良い。

■自然環境・生態系

◇魚にとっても、鳥にとっても生息しやすい川に。(7)

●床止めの整備の影響で魚が上流に上れなくなっているようなので、対策を講じるべき。

●掘削の整備をしたが、再び土砂の堆積により、魚が棲みにくくなっているのが問題。

●工事の影響で川の流れが変わり、魚が生息するようになった。

■水辺利用

◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(6)

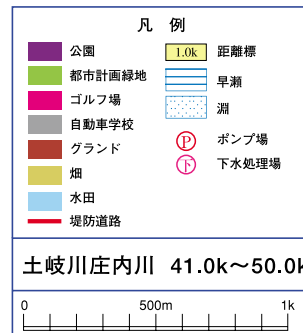
◇動植物にも配慮し、人工的ではなく自然を生かした水辺がよい。(2)

■河川敷利用

◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(3)

◇川沿いで、憩い、気持ちよく散策したい。

◇河川を生かした、花火大会や伝統行事などのイベントが楽しみ。



〔区間8〕矢田川合流点～宮前橋付近

■水質
◇川が汚い。美しくきれいな川に。

■堤防道路
◇車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。
◇緊急河川敷道路をもっと利用できるようにしてほしい。

■河川敷利用
◇ゴルフ場としてではなく、誰もが気軽に利用できる河川敷であるべき。(2)
◇美しい景観の中で散策したい。

■河川敷へのアクセス
◇ゴルフ場があるため河川敷に下りにくい。安全かつ気軽に河川敷に下りられると良い。

■利水
◇庄内用水や三郷悪水路を環境用水や防火用水として利用したい。(6)

■河川敷利用
◇大人も子ども、安全に、憩い、散策できるように。(2)

■水辺利用
◇子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。

■治水対策
◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(3)
●豪雨時に水位が上がると、現状の堤防で耐えられるか不安。
●堤防の耐震性が不安。
◇すぐに冠水するので、対策を施して、防止すべき。【三階橋左岸】

■治水対策
◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(3)
●把握している危険箇所への対策を早急にすべき。

■水質
◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。(2)
◇水が汚い。きれいな水になると良い。(2)

■河川敷利用
◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)
●サイクリングロードが整備されていない区間が残念。

■自然環境・生態系
◇ビオトープを設けてほしい。【宮前橋-矢田川橋】
◇渡り鳥を守り、より棲みやすい環境に。
◇自然を残すことが大事。

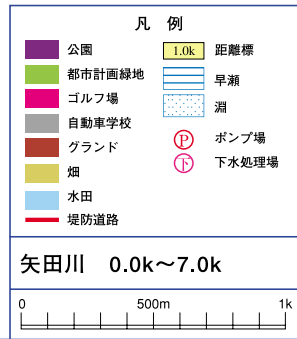
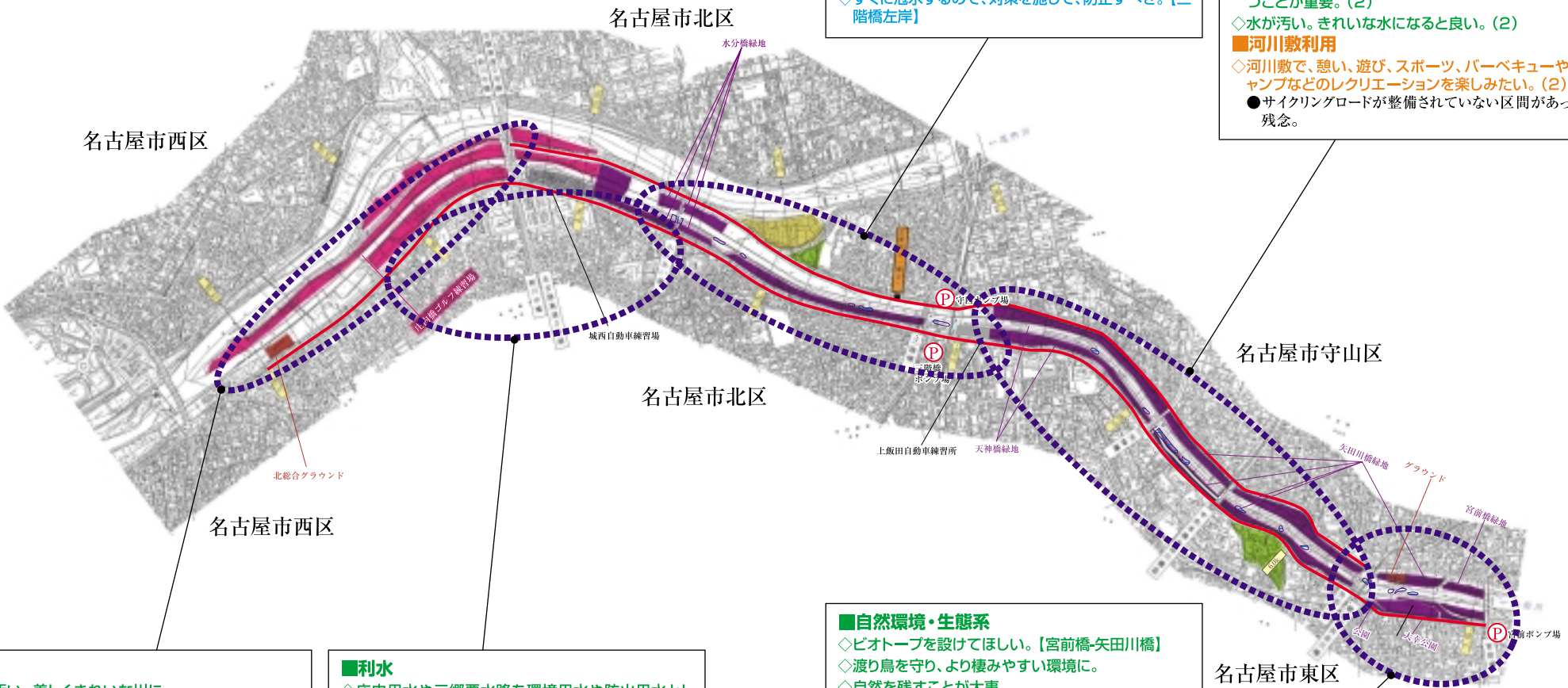
■水質
◇川が汚い。美しくきれいな川に。(2)
●子供が安心して遊べるくらいきれいな水に。

■河川敷利用
◇河川敷で、憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。(2)
●遊具があると良い。

■水辺利用
◇気軽に水と親しみたい。

■河川敷へのアクセス
◇主要な橋から河川敷に安全にアクセスしたい。

■堤防道路
◇堤防道路を安全に走れるように、遊歩道兼自転車道を整備してほしい。【宮前橋-矢田川橋】



〔支川・その他の河川〕

※支川やその他の河川に関する一般的な意見を取りまとめています。

八田川

■治水対策

- ◇水はけが悪くて困る。
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。【南花長橋付近】

五条川

■治水対策

- ◇洪水・水害の防止と環境保全の両立を。
- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷がゴミでできない。対策を講じるべき。

新川

■治水対策

- ◇洗堰からの越流で新川が洪水にならないように。(9)
- ◇新川の問題も考慮すべき。(5)
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(2)
- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)
- 河床が高いのが心配。

■水質

- ◇水がきたない。きれいな水になると良い。(3)
- 新川の中流～河口の水質が悪く、干潟への影響が心配。

■堤防道路・橋梁

- ◇道幅が狭く、車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。【三日月橋から国道23号までの新川南側】
- ◇橋が少なく、狭く、混雑する。スムーズに対岸と行き来できるようにと良い。

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。

■河川敷のゴミ

- ◇ゴミの流れていない美しい川に。

地藏川

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)
- H17年の整備に期待。【地藏川下流】

■水質

- ◇生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。

■自然環境・生態系

- ◇メダカ、ホタル、チョウ、カワセミや野菊などの動植物を守り、より棲みやすい環境に。

■水辺利用

- ◇子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。

内津川

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。

■水辺利用

- ◇子供が安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。

生田川

■水辺利用

- ◇子供が安全に遊べる場所があると良い。(2)

蛇ヶ洞川

■自然環境・生態系

- ◇上流からの土砂流出がオオサンショウウオに与える影響が心配。

瀬戸川

■水質

- ◇水がきたない。きれいな水になると良い。

矢田川

※直轄管理区間外

■水質

- ◇昔に比べてきれいになったし、魚影も見られるようになって嬉しい。

■対岸へのアクセス

- ◇対岸に安全に徒歩や自転車でいきたい。

堀川(黒川)

■治水対策

- ◇黒川への逆流による洪水・水害が心配。

■水質

- ◇水がきたない。きれいな水になると良い。(2)

■利水

- ◇井戸水がわきでる所がある。大切にしてほしい
- ◇庄内川水系全体で水融通し、親水性を高められるとよい。

■自然環境・生態系

- ◇ホテルの生息環境を再生し、より棲みやすい環境に。【稚児宮人道橋】

■河川敷利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。【稚児宮人道橋】

その他の河川

■治水対策

- ◇土砂の堆積が心配。【支川全て】
- ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。【中小河川】

■水質

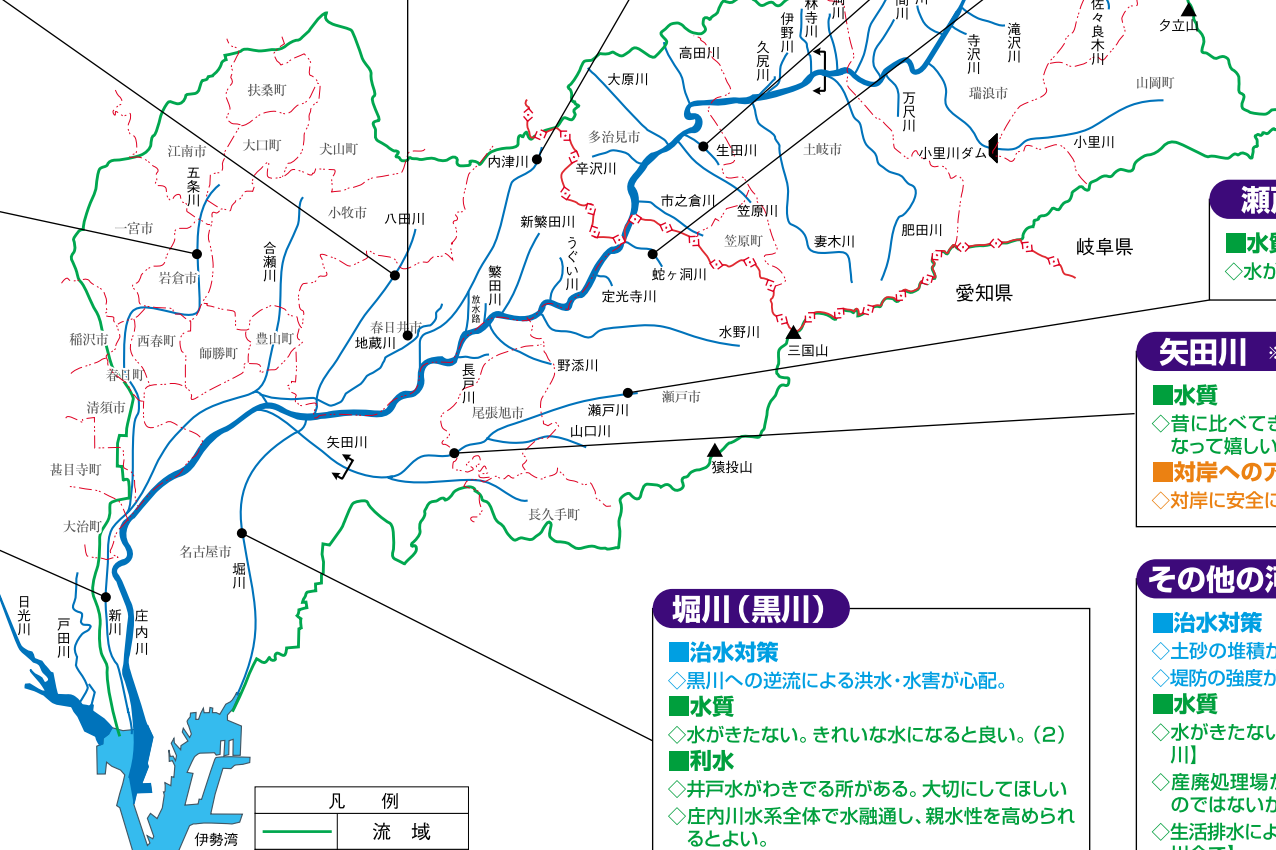
- ◇水がきたない。きれいな水になると良い。(3)【戸田川】
- ◇産廃処理場が建設されることにより水質が悪化するのではないかと心配。【可児市】
- ◇生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。【支川全て】
- ◇泳げるくらいきれいな川にしたい。【中小河川】

■自然環境・生態系

- ◇魚が棲息しやすい川に。【支川全て】

■水辺利用

- ◇人工的ではなく、自然を生かした水辺が良い。【戸田川】



凡 例	
	流域
	県 境
	市町境
	直轄管理区間

0 5 10km

流域全体

■治水対策

- ◇流域全体や支川を見通した計画づくりを。(11)
- ◇洪水・水害が不安。対策を施して防止すべき。(5)
- ◇流域の保水能力を高めるべき。(2)
- ◇河床の立体的利用などによる放水路や支川との流量調節で洪水を防げないか。(2)

■自然環境・生態系

- ◇メダカ、ホタル、チョウ、カワセミや野菊などの動植物を守り、より棲みやすい環境に。

■水質

- ◇工業廃水による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。

■利水

- ◇庄内川水系全体で水融通し、親水性を高められると良い。

■河川敷利用

- ◇障害者と健常者の区別なく利用しやすい河川敷にすべき。(3)
- ◇整備した場合でも整備しない場合でも、各々に適した利用方法がある。適切な河川敷利用の方法を考えるべき。
- ◇川沿いで安全に憩い、散策したい。

■河川敷へのアクセス

- ◇河川敷に下りにくい。安全かつ気軽に河川敷に下りられると良い。

■堤防道路

- ◇車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。

下流域

■治水対策

- ◇洪水・水害が不安。対策を施して、防止すべき。(2)

■水質

- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。
- ◇泳げるくらいきれいな川にしたい。

■河川敷利用

- ◇江戸川のように整備してほしい。

■河川敷へのアクセス

- ◇河川敷に気軽に行きたいが、アクセスしにくい。防災用の道路を歩行者通路にしてほしい。

■河川敷のゴミ

- ◇ゴミの流れていない美しい川に。

中流域

■治水対策

- ◇流域の保水能力を高めるべき。(2)
- ◇治水を一番に考えるべき。

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷や堤防に草木が生い茂り、ゴミが溜まりやすくなった目も良くない。対策を講じるべき。

■堤防道路

- ◇車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。

上流域

■治水対策

- ◇流域の保水能力を高めるべき。
- ◇上中流域から下流域への流出増を抑えるべき。

■自然環境・生態系

- ◇上流部の自然を保全することが大切。(4)
- ◇魚が棲息しやすい川に。(2)
- ◇メダカ、ホタル、チョウ、カワセミや野菊などの動植物を守り、より棲みやすい環境に。

■水質

- ◇水がきれいになって嬉しい。この水のきれいさを保つことが重要。(3)
- ◇生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇化学物質の流入による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇窯業系の白濁水を流さないように。
- ◇水が汚い。きれいな水になると良い。
- ◇泳げるくらいきれいな川にしたい。

■河川敷利用

- ◇河川敷で安全に遊べる場所があると良い。
- ◇河川を生かした、花火大会などのイベントが楽しみ。

■水辺利用

- ◇子供や大人が安全に泳いだり、魚とりをしたり、川遊びできるように。(3)

■河川敷のゴミ

- ◇河川敷や堤防道路の周辺がゴミでできない。対策を講じるべき。(2)

上中流域

■治水対策

- ◇上中流域から下流域への流出増を抑えるべき。

■水質

- ◇生活排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。
- ◇工場排水による汚染が心配。対策を講じてほしい。

すすめ方について

■計画・事業・管理のすすめ方や体制

- ◇計画や事業に関するプロセス、進捗状況及びその内容を逐次きちんと示すべき。(9)
 - 3年前の水害で被害を受け、その後の工事の内容などがみんなに伝わっていないと思う。【新川と庄内川の間の地区】
 - 激特事業の後の安全性について情報提供してほしい。【水分橋緑地、新川中橋】
 - ビオトープが既に計画されているのはおかしいのではないか。【高貝用水堰】

- ◇一部の専門家だけでなく、いろいろな人から意見を聴いて、整備に反映させるべき。(3)
 - 地元組織や自治体を通して意見を言える場もある。
 - 特に直接利害関係者への対応をしっかりしてほしい。
- ◇事業の内容が決まる前に意見を聴いて欲しい。(2)
- ◇行政自らが地元に出向いて市民と意見交換を行う車座集会のような取り組みはよい。
- ◇自分の住む地域でも懇談の機会を設けて欲しい。(2)
- ◇地元の人が行政と市民の会議を取り仕切れると良い。
- ◇行政と市民の会議のスケジュールを明確にして進めてほしい。
- ◇意見が計画にどのように反映されるのか知りたい。

- ◇行政頼みではなく、市民が自発的、主体的に活躍できる環境を用意すべき。(5)
- ◇担当者が変わっても話が通じるよう、窓口の継続性を担保して欲しい。
- ◇地域と行政が協働で川づくりが行える仕組みをつくるべき。

- ◇効率的、合理的に無駄が無いように工事を進めるべき。(20)
 - 5年ほど前に堤防を整備したにも関わらず、今の工事のためにまたコンクリートをはがしている。【一色大橋～大当郎橋】
 - 下流の危険な場所から先に工事を進めるべき。
 - 護岸を土で覆っているが、大雨で流れてしまっている。それを何度も繰り返しているが、無駄ではないか。【県立病院～国長橋、笠原川】
 - 蛇行した区間を真っ直ぐに整備していく方が、長い目で見れば効率が良いのではないかと。

- ◇自然環境の破壊について、法的に補償などを行う制度が導入できないか。(3)
- ◇最近のデータを踏まえて、雨量や降り方を再検討したらどうか
- ◇状況の変化にあわせて計画や工事を見直しすることも必要。(3)
 - 堤防の嵩上げで既存家屋が庄内川の配水管を使えなくなり、反対している。
 - 神領、堀之内の保留地は環境が悪いため売れないので、買い戻しが必要な状況になっている。
- ◇早く成果をあげるように進めるべき(3)
 - 堤防道路は便利だが工期が長すぎるので早く完成させてほしい。【南陽大橋】
 - 一色大橋の工事を早く完成してほしい。

- ◇行政間の連携をうまくとり、支川についても考慮して計画を進めてほしい。(2)
- ◇市民と行政の信頼関係を成り立たせることが重要。(2)
- ◇理論だけでなく、実験などをして実態に即した対策を検討すべき。
- ◇水防活動を維持することが大切。
- ◇廃棄物処理の管理が不安。
- ◇新河川法の趣旨を生かして、既存の枠組みにとられない体制で計画の検討や管理をすべき。

■河川の現況等に関する情報提供

- ◇治水城危険な箇所、浸水想定範囲、台風時の水位、洪水や水害対策に関する情報をもっと知らせるべき。(14)
 - 宅地化が進むことによるリスクをもっと知らせるべき。
 - 東海豪雨の時に、適切な場所に対策ができなかった。
 - 洗堰付近は人が住むには危険なので、行政がきちんと情報提供をするべき。
 - 昔からの地名には治水上危険なことが分かるので、地名を変えないでほしい。
 - 危険時に分かりやすい合図があると良い。【ふれあい橋】
 - いつでも水位をチェックできるような工夫があると良い。
 - ハザードマップがあると良い。【春日井市】
- ◇川の流量等に関する情報を随時提供してほしい。(3)
 - 水深の変動が分かるような観測所があるか知りたい【かえる公園】
 - どのくらいの雨が降ると危険なのかを教えてください。

- ◇堤防道路についての情報を教えてください。(5)
 - 今後、堤防道路はどのようにしていくのか。
 - 堤防道路の交通量を教えてください。

●堤防道路で多発する交通事故についてどのように考えているのか聴きたい。

●国としては堤防を道路として使うことについてどう思っているのか聴きたい。

●堤防道路整備に伴う移転家屋の情報を知りたい。

◇川の歴史について詳しい情報を知りたい。(2)

●長い歴史がある用水を大切にしたい。【庄内用水】

◇川や水に関するイベント情報を知りたい。

◇占用家屋は危険だと思うが、対策についてどのように考えているのか知りたい。【新川洗堰-庄内橋】

◇水質改善の状況や取り組みに関する詳しい情報を知りたい。(3)

●見た目はきれいになっているが、水質は改善されているのか知りたい。

●小学校で川をきれいにしてホテルを呼び戻すことに取り組んでおり、そういった取り組みを広げることが大切

◇川と流域の関係を知りたい。(2)

●用水の取水口について知りたい。【三郷悪水路】

●昔流れていた川は今はどうなっているのか知りたい。【大幸川】

◇地域の環境を比較できる情報がほしい。

◇防災拠点の計画について、十分な説明、情報を提供すべき。(2)

◇田畑の減少の推移や、それに対する対策についての情報を提供すべき。

◇個人による雨水貯留対策の方法や効果について知らせるべき。

◇一級河川の区間や、河川の名称等について教えてほしい。

◇洗堰の改修や研究結果に関する情報提供をしてほしい。(14)

●筑波で行っている実験結果を報告してほしい。

●報告会には愛知県からも出席してほしい。

●洗堰を1m嵩上げするとどのくらいの時間水が入ってくるのか知りたい。

●検討結果をきちんと報告してもらわなければ安心できない。

●ボーリング調査結果についての報告をしてほしい。

●洗堰を1m嵩上げすることによって効果があるのか知りたい。

●庄内川と新川との落差があることについて、愛知県の考えを聞きたい。

●洗堰付近の浚渫は行わないのか。

●洗堰を嵩上げすることによる左岸側への影響はないのか知りたい。

◇橋の架け替えに関する詳しい説明や十分な情報提供をすべき(2)

●新幹線とJR橋梁の架け替えによって堤防が高くなるため移転する家屋が出るということに関心がある。

◇桜佐地区の開発等についての情報を教えてほしい。

◇遊水池の堤防のボーリング調査について情報提供してほしい。

◇暗渠の扉の機能や管理の実態について教えてほしい。

◇小里川ダムの効果や下流への影響について知りたい。

◇徳山ダムについての情報を提供してほしい。

◇河川敷にどの程度植林できるのか知りたい。

◇河川敷を利用しやすくなるような情報があると良い。

◇調整池の計画についての情報を提供すべき。

市民活動について

■情報の共有化

◇洪水・水害に対する危機意識を共有化すべき。(4)

●地元の水防活動も地域組織を通じて行う。

●川の洪水の歴史について、しっかりと認識をしておくべき。

◇市民一人一人が治水に関して意識を高く持つことが必要。

◇流域全体の問題解決のため、上下流の市町村の連携が図れないか。

◇日常生活の中での川とのつきあい方について、市民が相互に情報を共有すべき。

■市民活動

◇川をきれいにするために市民は相互に協力すべき。(3)

●クリーン大作戦でみんなで護岸の掃除をしたい。

◇環境との共生や川の美化に関する意識を高めるための市民への働きかけが必要。(2)

●毎日河原を多くの人が歩いているが、歩く人たちもボランティア精神を持ってゴミ拾いをしながら歩くべき。

●庄内川中流域にも「きれいにする会」をつくりたい。

◇市民活動による自然公園づくりをすすめたい。

その他

◇愛岐道路は地域にとって重要な道路。(3)

◇河川以外に多治見市街地や交通の改善も期待。

◇下草の管理などはできるだけ市民がするようにすべきだ。

◇愛知県側と岐阜県側の協議は、中間の古虎溪あたりが適切。

◇玉野あたりの生活形態は、多治見や土岐などと異なる。

◇地球村のイベントを気に入っている。

◇昔に比べて被害がなくなり良くなったので、今以上の工事の要望はない。

◇農業者や魚にとって害のある鳥もいることを考慮してほしい。

◇緑が多い公園があると良い。【神領駅付近】

◇開発が進み車も多く、騒音や排気ガスがひどい。【神領駅付近】

◇土岐市で一番大きな川なので、きれいにして土岐市全体がきれいに見られるようにしたい。

市民意見交換会の活動記録

市民意見交換会は、平成15年の夏にメンバーを公募して発足しました。登録メンバーは、最終的に99名でした。(総参加申込者数:108名、退会者:11名)

全体会は10回行われ、その間に川歩きやグループ別の活動を行いました。

その成果として、1年目は流域の資源、課題を「情報マップ」にまとめました。

2年目は、テーマ別グループの提案をまとめる形で「提言」をまとめました。



第1回/ワークショップ



第2回/川歩き後の話し合い



第5回/テーマ別グループでの提案づくり



第3回 川歩き(魚道を点検しているところ)



H16年6月5日 川歩き(玉野溪谷)

【テーマ別グループでの取り組み】/参加者(開催日)

■生態系・水質・ゴミグループ (20名)	・下流での、水質、ゴミ等の点検 /5名(5/30) ・上流での、生態系の情報収集、水質検査/7名(7/17)
■原風景・歴史グループ (11名)	・歴史情報の持ち寄りと整理作業/7名(6/6) ・歴史環境、風景の現地調査/11名(8/8)
■体験・憩いの場グループ (14名)	・流域の「歩ける道」と「憩いの場」の調査(個人で分担) ・自然と触れ合い、遊べる河原の現地調査/9名(7/23)
■治水・防災グループ (11名)	・学習会1 治水の現状と課題/10名(6/13) ・学習会2 地域防災を考える/7名(8/1) ・学習会3 ハザードマップワークショップ/5名(10/3)

市民意見交換会の開催日・テーマ・参加人数

15年 9月20日	第1回 目的、進め方についての話し合い	44名
11月16日	第2回 川歩き～情報地図の作成(下流編)	28名
11月29日	第3回 川歩き～情報地図の作成(上流編)	23名
16年 2月15日	第4回 川歩き情報図のまとめ ～課題出し	38名

土岐川庄内川
情報マップ

国土交通省/
土岐川庄内川
河川整備計画
の策定作業

計画に反映

【テーマ別検討】

5月 9日	第5回 「こだわり重点プラン」絞り込み	34名
6月 5日	川歩き/下流	23名
6月19日	川歩き/上流	24名
★グループ別活動(調査、学習会、等)		
6月27日	第6回 テーマ別の検討	31名
9月 4日	第7回 実現のためのアイデアまとめ	31名

【実現プロジェクトの検討】

10月17日	第8回 協働事業の検討	19名
12月 4日	第9回 協働事業の検討	27名
17年 2月27日	第10回 実践に向けて	35名

提言の
中間まとめ

中間報告
計画に反映

提言まとめ

提言の提出
計画に反映

河川整備計画策定

※次項以降に提言の本文を掲載しています。

市民意見交換会の提言

土岐川庄内川河川整備計画への提言 土岐川庄内川の魅力資源を活かした 豊かな川づくりに向けて

平成17年2月27日
土岐川庄内川コレカラプロジェクト
第10回 土岐川庄内川市民意見交換会

基本的視点

川の魅力、川の豊かさに 視点を当てる

土岐川庄内川は、今もなお特有の魅力資源が随所にあります。

第1に、河口にはラムサール登録湿地の藤前干潟があります。日本最大級の渡り鳥の飛来地を河口にもつ土岐川・庄内川は、日本国内はもとより「国際的河川」と言ってもいいでしょう。

第2に、玉野溪谷や虎渓山永保寺周辺、白狐温泉周辺など、自然の溪谷美を見ることができます。山奥にある溪谷ではなく、都市の身近な場所に溪谷があるというのも、都市河川としては希少であり、すばらしい自然的資源をもった川であるということができるとでしょう。

第3に、上流の土岐川では、河床の岩盤に化石を見ることができます。瑞浪市では、子供たちや市民が土岐川で化石とりを楽しんでいます。「化石とりができる河原をもつ川」というのも、土岐川・庄内川特有の魅力です。

第4に、土岐川庄内川は、今もなお魅力的で多様な姿をとどめています。河口部に広がるヨシ原の風景、一色大橋の袂に残る松並木の風景、枇杷島橋下流の広い河川敷と多様な河川利用、周辺の歴史資源、勝川橋上流の中流部らしい川の風景、溪谷、多治見市から上流の街並みや人々の暮らしと結びついた川の風景など、多様な魅力資源がちりばめられています。

川の魅力資源に視点を当てて川を歩いてみるといろんなものが見えてきます。多くの市民が土岐川・庄内川の魅力に気づき、川と多様な関わりを持つ、そのための提案を行うことが、市民意見交換会にふさわしい提案のあり方ではないかと思います。土岐川庄内川の魅力を発見し、川と関わりを持つということは、市民一人一人が今すぐにでも始められることですし、そこに土岐川・庄内川の「再生力」の源があると考えます。

「土岐川庄内川の魅力資源を活かした豊かな川づくり」ということを、河川整備計画の大きな基本テーマとしたい。



藤前干潟



玉野溪谷



クロハツ並木（一色大橋）

1 土岐川庄内川4つの目標

(1) 多様な生態系を育む環境、ゴミのないきれいな川にしよう

- 流域全体や周辺環境に視野を広げ生態系を育む「緑」と「池・湿地」のネットワークを保全する
- 河岸や流れの形態の多様性を確保したい。
- 水質を向上させ、生態系豊かな遊べる川にしたい。
- ゴミのないきれいな川づくりを進める。



中流独特の川の風景（吉根橋上流）

(2) 川の本風景、歴史資源を保全活用していく

- 土岐川庄内川の特有の美しい風景を保全する。
- 川と人のかかわりの歴史を伝える遺構を大事にする。
- 周辺の歴史ポイント（史跡、神社、仏閣、街道、街並み等）を川づくりに活かす。
- 見晴しのいい場所（ビューポイント）から、川の風景を楽しめるようにする。



万場の渡し跡（万場大橋下流）

(3) 豊かな川体験を伝えたい、憩いの場をつくりたい

- もっと川に近付きやすくする。（特に下流域）
- 川沿いを歩ける道、サイクリングできる道を確保したい。
- 自由に遊べる河原が少ない。河原の利用、管理についての指針が必要。
- 子どもたちの、水辺での体験をもっと豊かにしていきたい。



化石とり（瑞浪市松ヶ瀬橋）

(4) 流域全体、地域参加で、治水・防災を考えよう

- 雨水貯留施設の普及など流域全体で「ゆっくり流す」ための工夫が必要。
- 災害を最小限に抑えるための対策が必要
- 防災に対する市民意識を高め、地域の防災対策を強化する
- 堤防強化と併せて水防拠点充実させる



桜並木と街並み（多治見市）

2 テーマ別の課題と方向性、提案したいこと

2-1 土岐川庄内川の本風景を大事にし、周辺の歴史文化を活かす

〔歴史・風景グループからの提案〕

■主要なテーマと代表的な場所

- 原風景的自然を大事にする
【玉野溪谷・虎渓山永保寺・白狐温泉などの溪谷美／ヨシ原が広がる河口部の風景／竜泉寺崖下の自然】
- 河畔林や並木のある川の風景を大事にする
【一色大橋クロハツ並木／多治見市に残る桜並木／川に点在する庄内川らしい樹木：ムクノキ、エノキ、アキニレなど】



ムクノキ

●川と暮らしにまつわる歴史を活かす

【桜佐のヨゲと霞堤／水屋／正徳橋下流右岸の川湊跡／「万場の渡」などの渡し跡／三階橋付近の樋門／人造石工法／庄内用水の通年通水など】

●川周辺の歴史・文化ポイントと川をつなぐ

【美濃路、佐屋街道、旧鎌倉街道、岩倉街道、下街道など旧街道／歴史的街並み／神社仏閣・史跡／中流部から上流部に分布する古墳群など】

●ビューポイントを川の名所として活かす

【金城埠頭から見た導流堤／明徳橋下流のヨシ原／シソ畑／万場大橋緑地から見た川の風景／ふれあい橋から見た風景／大留から桜佐、勝川橋にかけてのダイナミックな川の景観／東谷山から見た川の風景／鹿乗橋上流玉野溪谷／虎溪山永保寺周辺／白狐温泉周辺など】



河口部ヨシ原



中流部河原のある風景／大留橋上流



白狐温泉の溪谷

提案1 ビューポイント（見晴らしのいい場所）を、川の見所として整備する

【趣旨】

土岐川庄内川を豊かな環境として再生していくためには、多くの市民に土岐川庄内川の魅力を知ってもらうことがその第1歩となる。土岐川庄内川には、ビューポイントがたくさん存在する。そうした場所を市民参加でリストアップし、土岐川庄内川の見所として保全し整備する。河川整備に当たっては、見所（見る場所、見える風景）への配慮が必要である。



万場大橋下流からの風景

【考えられる取り組み】

- 川の見所には、「土岐川庄内川見所標」（見所マーク）をたてる
- 河道の幅などに余裕がある場所には、堤防を広くしたミニ広場（川の一里塚）を整備したい
- ミニ広場にはくつろいで眺められるように木陰やベンチを設置し水辺におりられるようにするとよい
- 視点場（眺める場所）の整備だけでなく、視点場から見える風景を保全する：河川整備に当たっては対岸からの眺めも考慮するなど
- 「土岐川庄内川見所ガイドマップ」をつくる

【活用・展開イメージ】

- 「川の風景」の定点観測場、生き物や水質の定点観測場、ゴミ掃除（アドプト事業）の重点区域、イベント会場など、「定点場」としての多様な活用展開が見込まれる
- 河川環境を風景という視点から評価するポイントとして活用できる
- 風景の変化をデーターとして蓄積し、河川整備に活かす

*アドプト事業は1985年にアメリカのテキサス州道路局が高速道路の周辺のごみ清掃を沿線住民に依頼した「アドプト・ア・ハイウェイ」が起源で、住民団体や企業が道路の一区間を行政に代わって清掃する仕組み。清掃活動をしている場所には管理している団体等の名前を記した看板が立てられる。庄内川を含めいくつかの河川でこの事業が取り組まれている。

提案2 旧街道との結節点や川と道が交差する橋詰めに「川の一里塚」など小広場を整備する

【趣旨】

川と交差する旧街道は、周辺の歴史的資源と結びついており、旧街道と川との結節点を中心として周辺の歴史資源と結ぶルートを設定すると川からまち（歴史）、まちから川へという人の動きをつくることができる。旧街道に限らず、橋は川と人・まちとの接点であり、橋詰めの堤防を広くして「川の一里塚」など小広場を設けることが望ましい。橋の周りの堤防を広いものにしておくことは防災面でも有効であると考えられ、そこから川やまちへアクセスする入り口ともなりうる。また、橋詰め広場ができることにより、川を眺めるビューポイントとしての機能が充実する。



枇杷島橋の袂に建っている美濃路道標

【課題】

- 既存の橋詰めや堤防敷地にはスペース的な余裕がない
- 道路管理者や自治体、地権者等の理解と協力が必要

【河川整備の課題】

- 橋詰め広場を整備することを河川整備計画の目標に掲げ、橋の架け替え時に道路管理者や周辺の関係者などの協力を得るなどして、少しずつ実現させることが考えられる。
*現在架け替え中の一色大橋（平成20年完成予定）や今後予定されている枇杷島橋の架け替えなどで可能性を検討できないか。
- 橋詰から川へのアクセスや水防活動、災害時の物資（海上輸送）の荷揚げ場など、多様な活用が見込まれる。

提案3 川の魅力と歴史資源ガイドマップを作成する

【趣旨】

市民意見交換会での情報交換や現地見学でも、相当数のビューポイントや魅力的な歴史資源がリストアップされている。こうした魅力資源発見の取り組みを全域に広げ、市民参加でガイドマップづくりを行う。その参加プロセス自体が、市民の川への関心を高め、ウォーキンググループや川守グループ、ガイド役などの発生など、具体的なアクションにつながると思われる。

【考えられる取り組み】

- 川の魅力資源や歴史資源発見行動を行い、ガイドマップを作成する
- 川と周辺を回遊するルートを考案する
- 史跡には説明板、要所に周辺の歴史資源などの案内板を設置するとよい
- ボランティアガイドによる説明や案内があるとよい
- 流域の自治体と協力してまちの歴史を案内するボランティアガイド養成をすることが考えられる
- 歴史ポイントを通して川を見ることができるよう情報をもとめる
街道／渡船場／寺社（式内社）／古墳／水害史／尾張名所図絵／ヨゲ堤／伏流水（酒造）／祭り

■川と歴史資源を結びつけるストーリー（例）

- 川に直接関係する史跡：渡し跡、水制工、霞堤、川湊跡
- 洪水に対する暮らしの知恵：桜佐のヨゲ（氾濫を前提とした集落を守る堤防）、水屋
- カミナリ＝雨＝洪水：川沿いに八龍社（カミナリ除け）がいくつかある
- 川＝災害：秋葉神社（火事除け）をリストアップする
- 水の神：水神（桜佐）、弁天社をリストアップする
- 川祭：岩塚七所社さねこさ祭、下之一色浅間社・川祭
- 星＝天の川＝庄内川：星神社
- 地域の歴史と深いつながり：前田家など
- 式内社：「延喜式神明帳」（901～922年に調査）にのっている古い神社
- 流域に特に数多く分布する神社
- 古墳の場所と川の関係（古墳ルートから川がどのように見えるか）

●桜佐のヨゲ堤（春日井市）

ヨゲ堤は桜佐の集落の周りに築かれた堤防で、庄内川があふれても被害を少なくする工夫。普段は堤防の切れたところから通行できるようになっているが、洪水の時には石の柱の溝に板をはめヨゲ堤の開いたところを閉める。八龍社には2本一組の石柱の内の1本が残っている。石柱には溝が彫ってあり、この溝に板をはめて通路を閉じ洪水の侵入を防いだ。



桜佐のヨゲ堤



ヨゲ堤の水神様



八龍社に残るヨゲ堤の柱

■神社



桜佐の東八龍社（カミナリ除け）



中味碗の西八龍社



上小田井の星神社（岩倉街道）



美濃路街道の屋根神様



萱津神社（漬け物の神様）



下之一色の浅間神社

■街並み・昔を伝える風情



岩倉街道（上小田井）



美濃路街道（西枇杷島町）



下之一色魚市場



瀬古の蔵式水屋（東春酒造）



土岐川沿いの酒屋（瑞浪）



土岐川沿いの建物（瑞浪）

2-2 多様な生態系を育む環境、ゴミのないきれいな川にするために

[生態系・水質・ゴミグループからの提案]

■主なテーマと解決課題

- 源流から河口まで、流域全体のつながりと広がり大切に。
- 現状の貴重な自然を生態系の核として保全する。
- 周辺の自然環境とのつながりや人と自然の係りを大切に。
- 現状の自然資源を生かしながら、積極的に自然環境を回復してゆく。
- 解決課題
 - ・魚道の問題：【小田井床止・神明上条用水堰の魚道・玉野堰の魚道】
 - ・ゴミの問題：【藤前干潟・稲永公園・ヨシ原】
 - ・水質の問題：【八田川合流点・愛岐処分場周辺・小里川合流点・源流】

提案1 生態系の拠点を核に「緑・水路・池・湿地・水田」のネットワークを形成する

【趣旨】

河川生態系の豊かさは、水源から河口までの「縦のつながり」（連続した河畔林、生物移動、土砂移動など）とともに、本川に合流する支川や小さな水路と湿地・池・水たまり・水田を含めた「横への広がり」が重要であり「アユが棲む川・アユがのぼる川」と「内と外に命がつながる川」を目標にしたい。そのような連続性を回復していくために、まとまりのある自然的資源を土岐川庄内川の生態系の拠点エリアとして位置づけ、拠点を核にした生態系のつながりを生み出す方策を検討する。

【生態系の核と考えられる候補地】

藤前干潟・河口部のヨシ原／庄内緑地／新川洗堰／ふれあい橋周辺／勝川橋～鹿乗橋間の中流部：竜泉寺屋下・才井戸流れ・大留橋左岸ビオトープ／鹿乗橋～県立多治見病院の溪谷（玉野溪谷、

古虎溪)／土岐観察館周辺／虎溪山永保寺周辺／定林寺川合流点／白狐温泉周辺／釜戸駅周辺／水源(夕立山)



河口部ヨシ原



ふれあい橋下流



志段味ビオトープ池

【方針・取り組み】

- まとものある自然的資源(拠点)をリストアップし、それぞれの拠点について環境情報を整理する
- 市民活動団体や学校などの協力を得て定期的、継続的な環境調査を実施する仕組みを検討する。
- 拠点ごとの調査結果を基に、それぞれの拠点の位置づけや保全・管理方針など、土岐川庄内川全体の生態系回復に関する構想、計画を立案する。
- 生態系保全、市民参加による管理の「実験の場」を設ける
 - *河口部ヨシ原:ゴミ掃除、ヨシの刈り取り・ヨシ活用を含めた実験区
 - *中流部:才井戸流れ、志段味ビオトープ、桜佐など中流部河川の実験区(竹林や河畔林の手入れ、湧水・湿地の保全、池や湿地の創出など)
 - *定林寺川の合流点:湿地の整備、雑魚がいっぱいいる川づくりなど
- 庄内用水や上条用水など農業水路を、都市の新たな親水空間とする

【課題・意見】

- 河口部ヨシ原の多くが民地で刈り取りなど維持管理がなされていない。



志段味ビオトープ:竹林の手入れ



才井戸流れ



稲永公園前のヨシと水鳥

提案2 市民、学校、行政で協働して育む水辺拠点を流域に増やしていく

【趣旨】

ヨシ原の刈り取りや竹林の間伐、ゴミ掃除など、人が手を入れて育てていく活動を広げる取り組みが必要である。土岐川庄内川では、河口部でのゴミ掃除や才井戸流れ、志段味ビオトープでの活動、土岐川観察館(多治見市)で行われている日常的・継続的な活動などがあるが、このような活動に地域住民や学校、自治体などが加わり、協働して育む仕掛けや仕組みが重要である。



ヨシ舟(北上川)

【取り組み】

- 流域で活動する団体等の情報交換等を継続的に行う場を設け、緩やかな人的ネットワークを形成する
- 流域の小・中学校・高等学校の先生や生物部および地域団体の連絡網を形成する。
- 水質一斉調査や生物調査を市民や周辺の学校などに呼びかけ継続的に調査データを積み上げていく。
- 調査の過程に市民が参加することによって、それぞれの拠点を市民自らが維持管理していくきっかけを生み出すことができると考えられる。
- 学校教育や地域活動で活用できる自然資源マップあるいはガイドブック、情報誌を作る。
- ヨシ原の刈り取りとヨシ舟づくり、竹林の間伐と竹炭づくり、筏遊びなど「楽しみながら手入れする」活動を広めてゆく。



土岐川観察館



がさがさ探検:土岐川観察館



志段味ビオトープ:竹イカダ

提案3 河川の自然を回復し、水質の向上を図る

【趣旨】

瀬や淵があり、中州があり、川が蛇行している。多様な川環境があることによって川の生き物の豊かさが支えられている。河川改修によって単調になった川に多様性を回復することを河川整備計画の中に位置づけ、実現していく。
水質改善については、行政、企業、市民レベルの取り組み、特に問題となっている場所の浄化対策を検討する。



【方向性と課題】

(1) 現存する良好な自然エリアや川の多様性を保全する

- 河川整備計画では、現存する良好な河川環境を保全し必要な保全方策を講じることを盛り込む
- 護岸をコンクリートで固めるのは必要最小限にし、植栽や緑化は本来の植生の回復を基本とする。

(2) 瀬や淵など失われた川の自然と多様性を復元する

- 失われた瀬や淵、中州など川の多様性を可能な限り復元することを河川整備計画に盛り込む
- 住民はかつての瀬や淵などの情報(写真やスケッチなど)と復元に関するアイデアを提供し、行政は掘削機(ユンボ)と操作員を提供するなど、現場で話し合いながら協働して復元作業を行う(事例/栃木県余笹川)。
- 川の自然は変化することを前提に、工夫を継続する(失敗を責めない。実験的、順応的管理)。



水質生態系グループによる水質生き物調査

(3) 川本来の自然的な環境を保全・復元し

生き物と人とがともに豊かに関われる川づくりを工夫する

- 堤防の防護や低水河岸の整備に当たっては、河岸や水際部をできるだけ自然に近い形にする。

(4) 堰や床止め、魚道の改善を図り、魚が移動できる環境をつくる

- アユだけでなく他の魚類や水生生物、鳥類についても調査し、魚道や遡上した先の河川環境の有効性や問題点について調査をする。
- 改善が必要と思われる魚道：小田井床止、上条神明堰、玉野堰
*アユと鳥類（カワウ、サギ類）の問題は立場によって様々など考え方が異なる。共有点を見いだすため何らかの取り組みが必要。



小田井床止



上条神明堰



玉野堰

(5) 行政、企業、市民レベルの水質改善、特に水質が悪い場所の対策を進める

- 八田川合流点の水質が極度に悪い。浄化施設を設置するなど重点的な対策が必要。
- 高水敷を利用した小水路による実験的水質浄化の検討（実験方法の検討、市民の受け皿づくり）
- 下水処理水や企業排水の浄化対策、汚水と雨水の分流が必要。
- 上流部に魚が少ない、夏場にPH値が上昇するという指摘がある。なぜ魚がいないのか、魚が棲みにくい要素やPHが上昇する原因を解明し、改善してゆくための調査や実験が必要。



八田川合流点の汚濁水

(6) 河川整備への住民参加、合意のシステム

- 住民は、地区の歴史や自然資源を元に「生態系から見たデザインの手引き」を作成する。
- 行政は、案の策定前の段階から住民と話し合い、工事段階でも参加の機会を設ける。
- 工事後の評価や改善を協働で行う。

提案4 ゴミのないきれいな川づくりを進める

【趣旨】

河口部の川岸やヨシ原には、多くのゴミが堆積している。上流から流れ着いたものが多く、流域全体の問題として取り組む必要がある。また、ゴミに対する行政の対応は、各自治体によってシステムが異なるため、流域全体で取り組むことを困難にしている。

【考えられる方策】

- 河口部で行われている清掃活動を軸に活動を広げ、流域全体で「ごみ収集大作戦」を展開しゴミの種類などをマップ化、情報交換を行う。

- 河口部については、上流の学校や地域団体に河口部に足を運んでもらい、自然観察などを通してゴミ問題についても考える機会を作る。

- アドプト事業を広める

【改善課題】

- 河口部は堤防道路の交通量が多く、水辺にアクセスしにくい堤防構造になっており、ゴミ収集活動が思うようにできない。近づきやすい構造に改善する。
- 回収したゴミ処理が機能的に展開できるシステム（自治体の協力体制）が必要



稲永公園前のヨシ原にたまったゴミ。河口部にはたくさんのゴミがたどり着く。

2-3 豊かな川体験を伝え、川を憩いの場とするために [体験・憩いの場グループからの提案]

提案1 「川沿いにずっと歩ける道」を確保したい

【機能】

- 長い距離を歩けるウォーキングルート（広々として自然を感じられる健康の道）
- 流域の歴史や文化を体験するポイントをつなぐ道づくり。（提案2の「散歩道（トレイル）」のルートとしても考えていく）
- 防災のための道

【課題】

- 車の入らない道が川沿いに確保されているところは、少ない。
- 川沿いに木陰がない（日差しを避けほっと一息つける場所がない）

【整備の方針提案】

- できる限り、堤防上あるいは川側（高水敷）に歩ける道（車の入れない道）を確保する。
- 下流区間の堤防道路は一方通行にし、川表側に歩行空間を確保したい
- 歩く道沿いの要所に木陰を確保する。可能な場所では堤防に盛土をして並木を植え、育てたい。現状の課題／歩道を整備しても、殺風景で、歩いていても木陰がない。（例／多治見）
- ポイントに看板の設置。（化石、酒屋、染色屋、漁業、用水）
- 見晴しのいいところ、木陰等にベンチを設置する。



新土岐川橋付近（土岐市）



下流の堤防道路：車の通行が多く、歩道もないため川沿いを安心して歩けない。川に近づきにくい。



堤防下をサイクリング

ほっとできる砂利の散歩道

木陰があると一息つける

*庄内川の河川空間利用調査では散策、スポーツ利用がそれぞれ50%程度。水遊びは3%にすぎない。
*散歩利用が多いということはまずは安心して歩ける道、要所に一息つける木陰などがあることが大事ということ

提案2 川沿いのポイント結ぶ「体験学習回遊ルート」を策定する

川をながめ、景色をながめ、人をながめ、歴史、文化を伝え、地域の交流をすすめるための体験回遊ルートを考える
地域の歴史と川はきりはなせない。つなげてたどることで歴史、文化の交流がうまれる。

【方針】

- 川沿いの歴史文化、環境学習のポイントをピックアップし、それをつなぐ回遊ルート(トレイル:散歩道)を設定する。
- 「東海自然歩道」のように市民に愛される名前を市民公募でつける
- 内容的には、総合学習に役立つようなものを選ぶ。

川沿いには、化石、漁業、酒屋、染物、産業遺産がちりばめられている。王子製紙取水場も、川が産業に貢献していることを伝えたい。愛知用水の説明も入れたい。水位メーターは、災害や防災の学習になる。支流が入ると臭い、汚れ。子どもといっしょに川の問題を見ると、大人も考えさせられる。

【具体的な事業案】

- ポイント選定、ルート設定のための、参加型の調査のプロジェクトを、学校の先生なども参加して組立て、子どもたちにも資源発見やルートづくりに参加してもらう(事例/ロンドンのテムズ・トレイル)。
- 参加による案内地図、説明ブック等の作成。
- ホームページ実行委員会を設け情報収集整理し、マップという形にする。
- 参加、協働による案内版の作成と設置、維持管理。
- 案内ボランティアの養成が必要。
- 活用モデルプログラムの実施。

*川ナビ事業、土岐川観察館などの連携をつくっていく。



下津尾の渡し跡：説明板があるとよい

【活用の展開イメージ】

- 学習トレイル(回遊ルート、散歩道)の、学校の授業への実験的な活用プログラムを積み上げ他の学校にも活用してもらう。
- 流域の学校がお互いの学校を訪ねるようなプログラムも考えられる。
*参考/2001年度に、庄内川河川事務所の実験的な事業として、上中下流の3つの小学校での総合学習の取り組みと、その成果をもとにした流域交流学习プログラムが提案されています。そのようなプロジェクトの継続には、地域や市民団体が主体となってプロジェクトを進めるための支援システムが必要となります(行政や教師が主体だと、人が変わると立ち消えになるので)。「支援システム」として考えられるのは、「拠点づくり」(上流の土岐川観察館のような施設が、上中下流にありネットワークするとか)を中心に、「プログラム開発」、「支援スタッフ」(川ナビ、川の学芸員)が行われる、「資金援助」などが考えられます。
- 流域を歩くイベントも行いたい。



水辺の楽校(土岐小学校)

提案3 「遊べる河原」「降りられる場所」を確保し、市民との協働で「川辺の小路」を管理する

【機能】

自然体験のできる生態系の豊かな河原、自由な利用ができるアウトドア遊びの河原、渓谷でのバーベキューなど、河原の状態を活かした体験や遊びができる河原を保全活用する。

【整備課題】

- 特に下流域では、ゴルフ場などの占有利用面積が多いこと、芦が密生しているなどで、市民が自由に入れる自然な河原がほとんどない。
- 河原でのバーベキューは、河原を汚したりゴミの散乱の要因ともなるのでルールや管理のあり方について検討する必要がある。

【整備の方針提案】

- 下流域では、河川敷の占有利用の面積、用途をコントロールし、自然な河原を確保する。
- 「川辺に降りられる場所」を、橋のたもと、「川辺の小路」の入り口などに確保する。
- できるかぎり木を残し、できれば新しく木を育てる。
*市民グループと行政と協働または、アドプト活動として「川辺の小路」を市民グループなどが整備管理する。
*「川辺の小路」の策定にあたっては、民地内(ゴルフ場や農地の川べりなど)でも所有者の協力を得て設置できるような協力をあおぐ。



河原に降りられる小道
グッドデザイン!



鹿乗橋上流右岸:バーベキュー



愛知環状鉄道下流右岸の河原



新東谷橋下流右岸の河原

提案4 「川を楽しむミニ拠点(川の駅)」の設置

【機能】

- 散策、アウトドアなどの時の拠点をつくる。

【整備の方針提案】

- 流域の各要所に、トイレ、水道、木陰、駐車場を提供する「ミニ拠点(川の駅)」を配置する。
- 場所は、「川沿いにずっと歩ける道」「遊べる河原」との関係を見ながら、景色のいいところに設置する。川、河川敷へのアクセス拠点とする。



竹林の小道(志段味ビオトープ)



水分橋下流右岸:駐車場、簡易トイレ



遊べる河原

提案5 下流に「川遊びハウス」を設ける

【コンセプト】

- 上流の「土岐川観察館」のような川の体験の拠点を下流にも設け、下流の川にかかわる活動の拠点とすると同時に、流域の拠点ネットワークの一つに位置付ける。
- 下流は、自然観察などを主体とする拠点ではなく、まず川に親しんでもらうという意味で、川遊びをサポートするような拠点をつくりたい。
- 拠点は、数カ所に設置し、ヨシ原の保全活用、ボート遊びなど、多様な市民活動や市民レクリエーションを育てていきたい。

【施設イメージ】

- 施設は国、もしくは自治体に設置してもらい、運営は(行政の支援を受けながら)市民主体で行うようにしていきたい。
- 具体的な場所としては、以下の場所が候補地としてあげられる。

- 建設予定の水防拠点(枇杷島、下之一色)に、「川遊びハウス」機能を持たせる(設置主体は国)。下之一色の水防拠点は、ヨシ原の保全を市民参加で進めるための拠点として活用できるとよい。
 - 大学ボート部艇庫付近に整備予定の親水護岸は、ボート部などとも連携して水面利用の拠点として広く市民が有効活用できるよう運営を行う。
- *ヨシ原の保全を市民参加で進めるための、河口付近の拠点。

【活動イメージ】

- 川遊びのためのボート、パラソル、救命具などをレンタルする。
- 川遊びの指導ボランティアにより、さまざまなプログラムを開発、展開していけるとよい。
- 「ヨシ舟づくり」「ヨシの家づくり」などのイベントをコーディネートしていく。



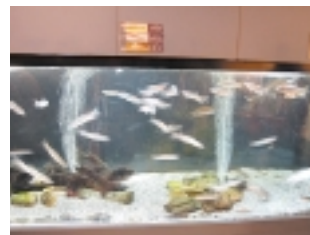
大当郎橋付近にあるボートハウス



16年5月に行われた親子体験ボート



ボートが浮かぶ川の風景



多治見市の活動拠点となっている土岐川観察館

2-4 流域全体で治水安全度を高め、地域の防災力を高めるために

〔治水防災グループからの提案〕

■主要なテーマと取り組み課題

- 地域の特性やリスクに対応した治水・防災対策を進める
下流域は堤防で守られており、洪水時の水位が高いことから内水や氾濫溢水による被害を最小限に抑えるハードとソフトの対策が重視される。上流域や支川域では、雨水貯留など流出抑制が課題になる。上下流域や支川域の地形的特性や相互の関連性、リスクに応じた治水・防災対策を進める。
- 雨水貯留施設の普及など流域全体で流出抑制対策を進める。
- 地域における防災対策を強化する取り組みや仕組みを検討する。

提案1 雨水貯留施設の普及や遊水地の設置など流域全体で流出抑制を推進する

【趣旨】

かつては氾濫区域であったところや遊水地に住宅が建つことによって洪水氾濫に対する被害のリスク(危険度)が高くなり、上流域や支川域の開発によって洪水の流量が増大し洪水が下流に到達する時間が短くなっている。流域の遊水機能を保全し、災害リスクを軽減するための対策を強化する必要がある。

【取り組み課題】

(1) 流域の遊水機能や遊水地を保全する対策を推進する

- 庄内川にはかつて佐佐(内津川と庄内川に挟まれた地域)のように洪水を一時的に貯める遊水地があり、農的な土地利用とヨゲ(集落の周りに築いた小堤防)や水屋によって暮らしを守る知恵があった。そのような遊水地が開発によって失われている。小田井遊水地の他に新たな遊水地をどのようにしてつくるかが課題である。遊水地としての機能や水防拠点の機能を発揮し、平時は市民が活用できる「遊水地・レクリエーションセンター」をつくってはどうか。
- 流出抑制対策として溜池や休耕田等の活用を推進する。具体的には、溜池の現状や貯留可能容量などを調査し、洪水時における雨水貯留施設としての改善を図る。親水性や生態系にも配慮した整備を進める。
*溜池の管理者、利水権者との調整や流域自治体の事業体制等が必要。

(2) 開発調整池の設置を強化し公共施設や企業での雨水貯留施設の設置や

浸透舗装などの事業を進める

- 開発に伴う調整池設置の指導が自治体によって差があり、調整池がきちんと機能しているかどうか疑問がある。開発指導を強化し調整池の設置を義務化する。
- 公共施設や企業における雨水貯留浸透施設の整備を計画的に推進する。
- 駐車場や歩道などを浸透型にしたり、浸透側溝を整備する。

(3) 各戸貯留を普及する

- 個人住宅における雨水タンク、浸透桝、浸透トレンチなどの設置を奨励し、助成する仕組みを整備する。

(4) 総合的な治水対策を推進するための協議の場や仕組み、基準を確立する

- 上記の施策を推進するためには、流域自治体や企業、市民の協力が不可欠であり、総合的な治水対策を進めるという共通の目標と合意をつくりだすことが第一に必要である。
- 河川管理者(国土交通省、愛知県、岐阜県)が中心になって、土岐川庄内川の流出抑制の目標や指針、対策を構想し、流域自治体や企業等との協議の場を設置する。
- 流域における遊水機能の保全区域や河川と流域の分担、開発遊水地の統一的な目標水準、流域貯留浸透事業の推進方策などについて協議を進める。
*土岐川庄内川行政連絡会議アンケートによると、大規模開発に対する貯留施設の設置などに関する具体的な計画や実績があると答えたのは8/33(県市町)であり、雨水貯留施設等の補助制度があるのは13/33である(第6回土岐川庄内川流域委員会資料)。統一的な基準と開発指導の強化は急務である。

提案2 堤防の強化と水防拠点の整備を推進する

【趣旨】

下流域は堤防で守られており、内水氾濫と本川からの氾濫溢水に対するリスクが高く、浸水被害が広範に及ぶ。特に、破堤した場合の被害は甚大である。特に下流域では、流下能力の拡大だけでなく、越流しても破堤しないように堤防を強化する、水防拠点を充実するなど、被害を最小限に抑えるための対策が重要である。

(1) 堤防を強化する

- 長時間持続する_水位に対して堤防の安全度を向上させ、越流しても破堤につながらない耐越流型の堤防に改善していく。
- 河積に余裕があるところや蛇行部などの堤防幅を広げ、堤防の安全度を向上させる。



万場大橋下流右岸蛇行部(下流方向から)

*堤防の裏法や表法に腹付け盛土をして堤防天端幅を広くすることができないだろうか

(2) 水防拠点を充実配置する

- 現在、枇杷島と下之一色の2カ所で水防拠点整備が進められているが、河積に余裕がある場所などで堤防幅を広くしたミニ水防拠点を配置する。
- 水防拠点は普段から足を運ぶ場所になって、いざというとき役に立つ。普段の市民利用(ビューポイント、橋詰めなど)とセットで候補地を設定するとよい。

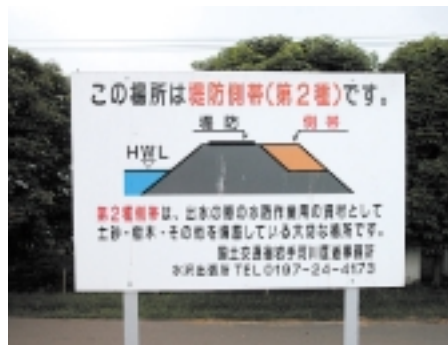


枇杷島水防拠点予定地



下之一色水防拠点予定地

*ある程度広い敷地があるので、水防機能だけでなく、堤防道路の拡幅と歩車分離、並木、川遊び拠点など豊かな空間として整備したい。



堤防側帯(北上川):堤防側帯は水防活動等のために盛土して堤防の上幅を広げる方法
*堤防側帯の方法を応用したミニ水防拠点充実していくことは可能と思われる。

(3) 治水上の課題が指摘されている場所

- 新川洗堰:現在進めている新川洗堰遊水地に関して、堤防強度は大丈夫かなど不安がある。洗堰に関する情報不足。
- 鹿乗橋上流:川幅が狭く岩が多いので危険箇所
- 内津川合流点:庄内川が大きく蛇行している場所で、右岸に水が寄せられている。堤防強化等の対策が必要。
- 万場大橋～横井大橋間:大きく蛇行している区間であり、ビューポイントとしての整備検討と併せて堤防幅の拡大など堤防強化を検討する。

提案3 地域の防災力を高める取り組み

【趣旨】

自治体や地域レベルでまちの構造を災害に強いものに改善していくことや、被害を最小限に食い止めるためのソフト的な対策が重要である。

【取り組み課題】

(1) 情報の伝達システムを改善する

- 大雨の時にはサイレンが聞こえない、川の水位や破堤の情報などローカルな状況がテレビやラジオではわからない、インターネットは高齢者には不向き、避難の判断が難しいなどの問題がある。
- 放送機関や自治体、河川管理者、企業等による協議の場を設け、川の水位などローカルな情報が住民に伝わる仕組みを検討する。特に、通信メディア(ケーブルテレビなど)との連携、活用を強化する。
- 水防訓練の際に、放送機関の協力を得て試行する。
- 避難行動に関する判断基準がないと情報が活かされない。何らかの判断基準(どここの水位がどれくらいになったら避難準備をするなど)を示すことが必要。
- 名古屋市では避難勧告準備情報があるが、他の自治体も工夫が必要。
- 河川管理者から自治体、自治体から地域(学校区、自治会、町内会、組)、世帯・個人への情報伝達の仕組みを検討する。

(2) 避難場所や避難ルートを点検し安全に避難ができるようにする

- 指定避難場所が水害に対して適地にあるわけでないから、水につかることがある。指定避難場所でない食料が配分されなかったりする。
- 避難場所自体の浸水可能性(何階から上が利用できるのか)や避難ルートを再検討し、それぞれの地域に応じて避難準備情報を流すなど、きめ細かな対策が必要。
- 高いビルの所有者や企業などに一時的な受け入れを依頼するなど、避難場所の拡大を検討する

(3) 地域の情報を基にしたオリジナルなハザードマップづくり

- 自治体がつくるハザードマップでは、実際の避難行動に必ずしも活かさない。
- 地域ごとに住民が町を点検して、実際に有効な避難ルートや弱者対策など、地域の実情に応じたオリジナルなハザードマップをつくる必要がある。

(4) NPOとの連携と活用を進める

- 地域レベルでハザードマップをつくる、或いは防災活動を日常化していくには、NPOとの連携が不可欠である。自治体がNPOに地域防災支援を依頼する仕組みを推進する。モデル地区を設けて試行することが考えられる。
- 水防拠点にNPOが常駐し、地域の様々な相談にのるということも有効である。
- 小中学校の総合学習に取り入れることも検討する。

(5) 災害に強いまちづくりや住まい方、備えなどの情報を整理し伝える

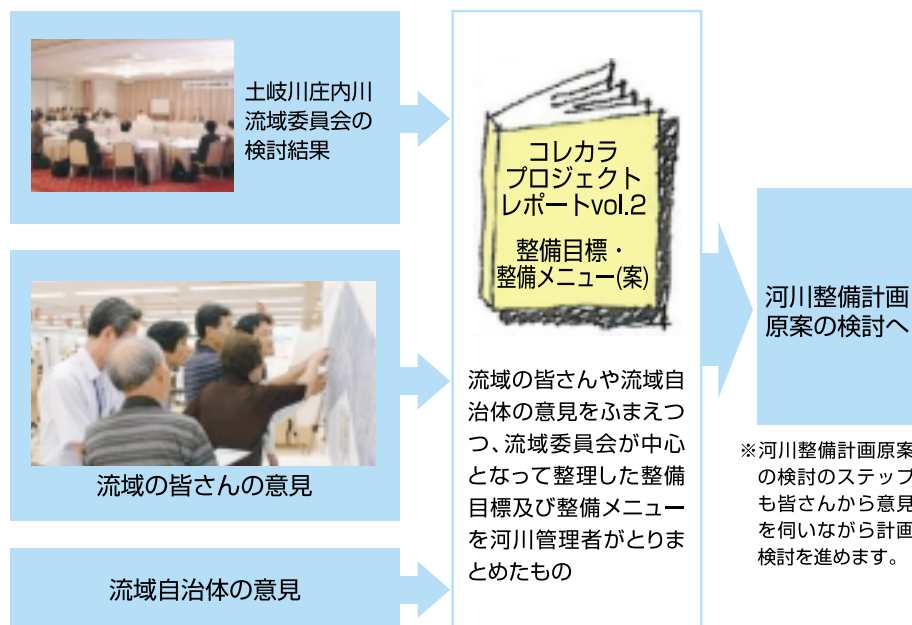
- 避難の際に家電製品のコンセントを抜く、高いところに置く、ものによっては補修すれば使えるなど災害体験を通して、住民自身が教訓にしている情報がたくさんある。
- 昔からの言い伝えというのも個人や地域レベルで蓄積されている。
- 住宅の補修や建て替えの際に土台の構造など工夫を凝らすことで、被害を最小限に抑えることが技術的に可能である。
- これらの情報を収集整理し公共的な施設で手にすることができるような仕組みが必要である。

コレカラも引き続き市民と行政と協働で 計画づくりを進めていきましょう。

コレカラプロジェクトでは計画を確定する前の段階から皆さんの意見をお聴きしています。今後、皆さんからのフィードバックと政策的・技術的検討結果等を総合して、河川整備の目標およびメニューを確定し、「コレカラプロジェクトレポートvol.2（河川整備の目標・メニュー（案）」としてとりまとめる予定です。

土岐川庄内川のより良い計画づくりのためには、皆さんからの意見が不可欠です。

コレカラも引き続き市民と行政とが一緒になって、土岐川庄内川の計画づくりを進めていきましょう。



あなたのお好きな方法で
ご意見をどうぞ。

フリーダイヤル
0120-4071-41
しょうないがよい

電子メール
shonai@cbr.mlit.go.jp

ホームページ
<http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai>

この冊子に掲載している意見に足りない意見などがありましたら、添付してあるハガキにて、お寄せください。
また、ご都合にあわせて上記の方法でもご意見をお寄せいただけます。